

[3] 市民ニーズ等の把握・分析

日南市中心市街地活性化基本計画策定にあたり、広く市民の買物行動や中心市街地への満足度、重要と思われる機能等についての意見を収集し、市民ニーズに対応した実現性の高い計画づくりのため、アンケート調査及び意見交換会を実施した。

(1) 本計画策定のための市民意識調査

【実施状況】

調査時期：平成20年2月15日（金）～ 29日（金）

調査対象：20歳以上の市民を対象に無作為抽出した2,000人

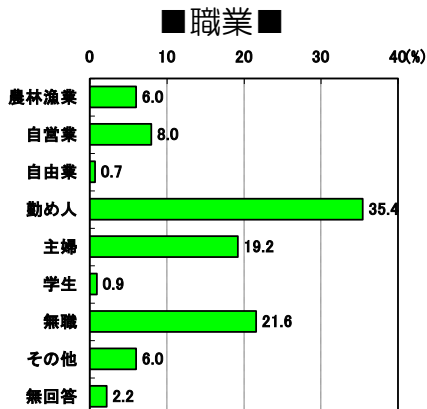
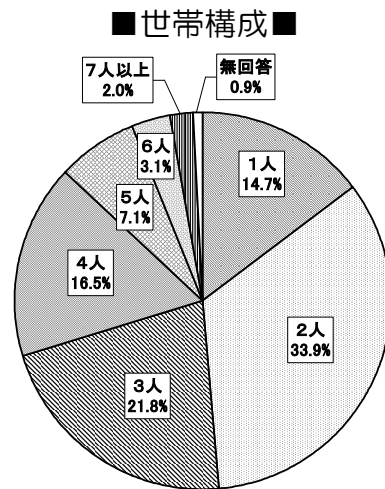
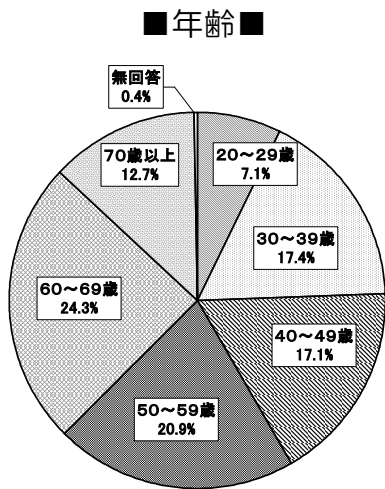
調査方法：アンケート票を郵送し、返送により回収する郵送調査法

有効回答数：449人（回答率22.5%）

1) 回答者の属性と行動パターン

① 属性

回答者の主な属性を見ると、年齢では60歳以上が約3分の1を占めており、世帯構成では、2人以下が約半数となっている。また、居住地では、中心市街地内と中心市街地外で、概ね2：8の割合となっている。



■ 居住地 ■

中心市街地内	中心市街地外
21.8%	77.9%

■ 性別 ■

男性	女性
35.6%	61.3%

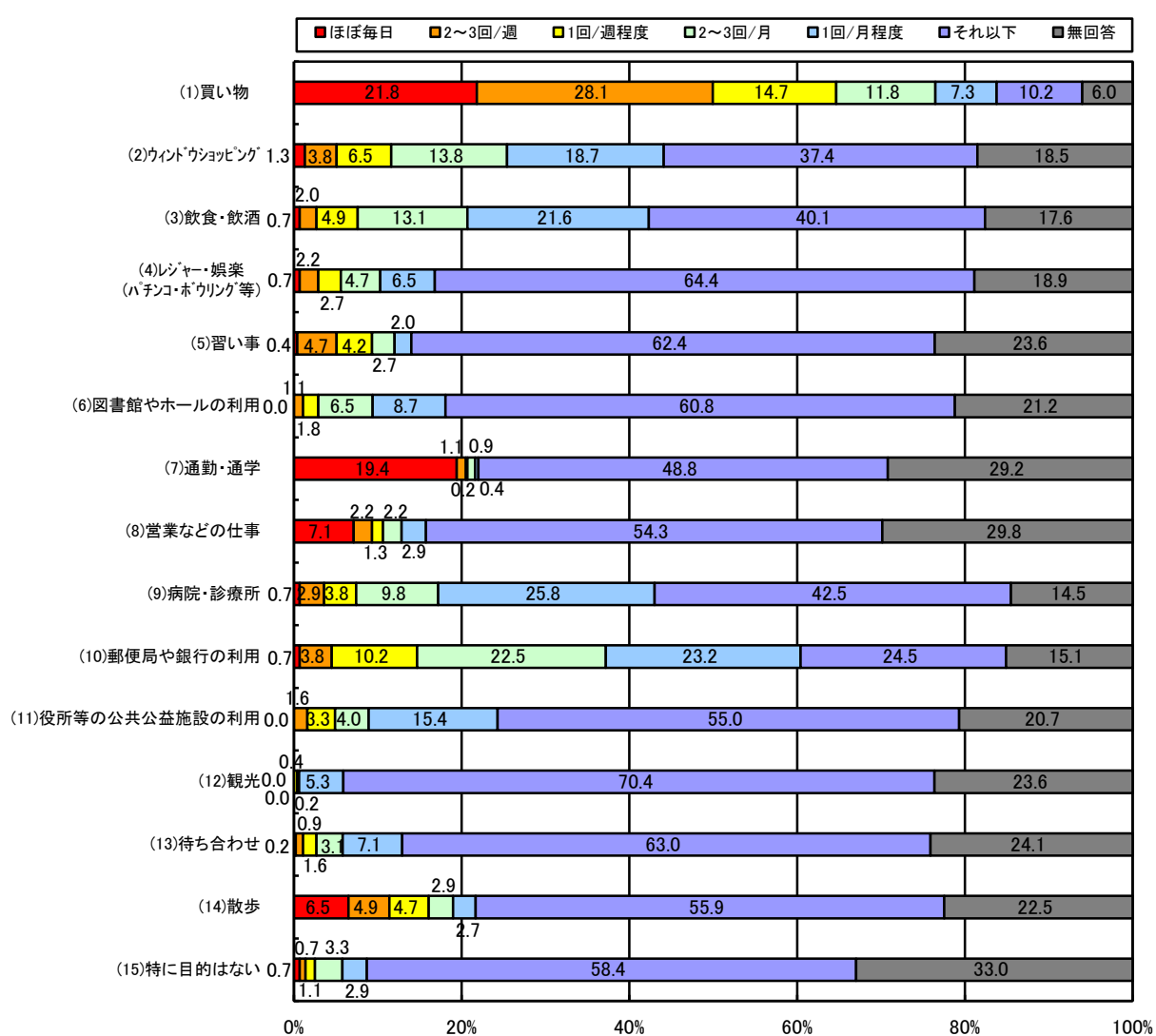
② 来街目的と頻度

中心市街地に日常的に来街する目的としては、買い物と通勤・通学が多い。なお、買い物でほぼ毎日利用しているのは、回答者の属性からみても、主に中心市街地内の居住者であると思われる。

また、ウィンドウショッピング、飲食・飲酒、病院・診療所、郵便局や銀行の利用といった項目では、4割を超える方が月に1回以上利用すると回答している。これは、中心市街地には、大型商業施設や繁華街があり、また、医療機関や金融機関が集積しているためであると思われる。

しかし、他の項目では、5割を超える方が、月に1回程度も利用しないと回答しており、特に、ボウリングやカラオケ、市民サービスコーナーなどはあるものの、レジャー・娯楽や公共公益施設の利用頻度が低いことから、既存の施設では、魅力に欠けていると思われる。

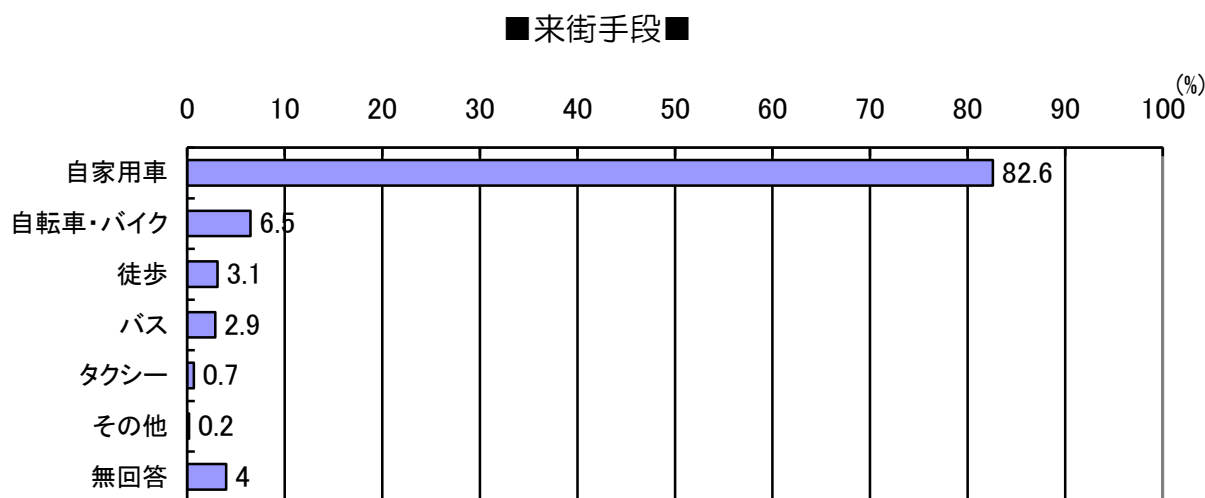
■ 中心市街地への来街目的と頻度 ■



③ 来街手段

来街の際の交通手段では、圧倒的に「自家用車」が多く 82.6%である。次いで「自転車・バイク」の 6.5%、「徒歩」の 3.1%であり、公共交通機関の「バス」の利用は 2.9%となっている。

これは、自由意見にもあるが、バスやJRといった公共交通機関は、1時間に1本程度の運行で利便性が悪く、その割に料金が低いと市民が感じていることが、利用率が低い原因と思われる。これらのことから、本市の来街手段が、主に自家用車となっていると思われる。



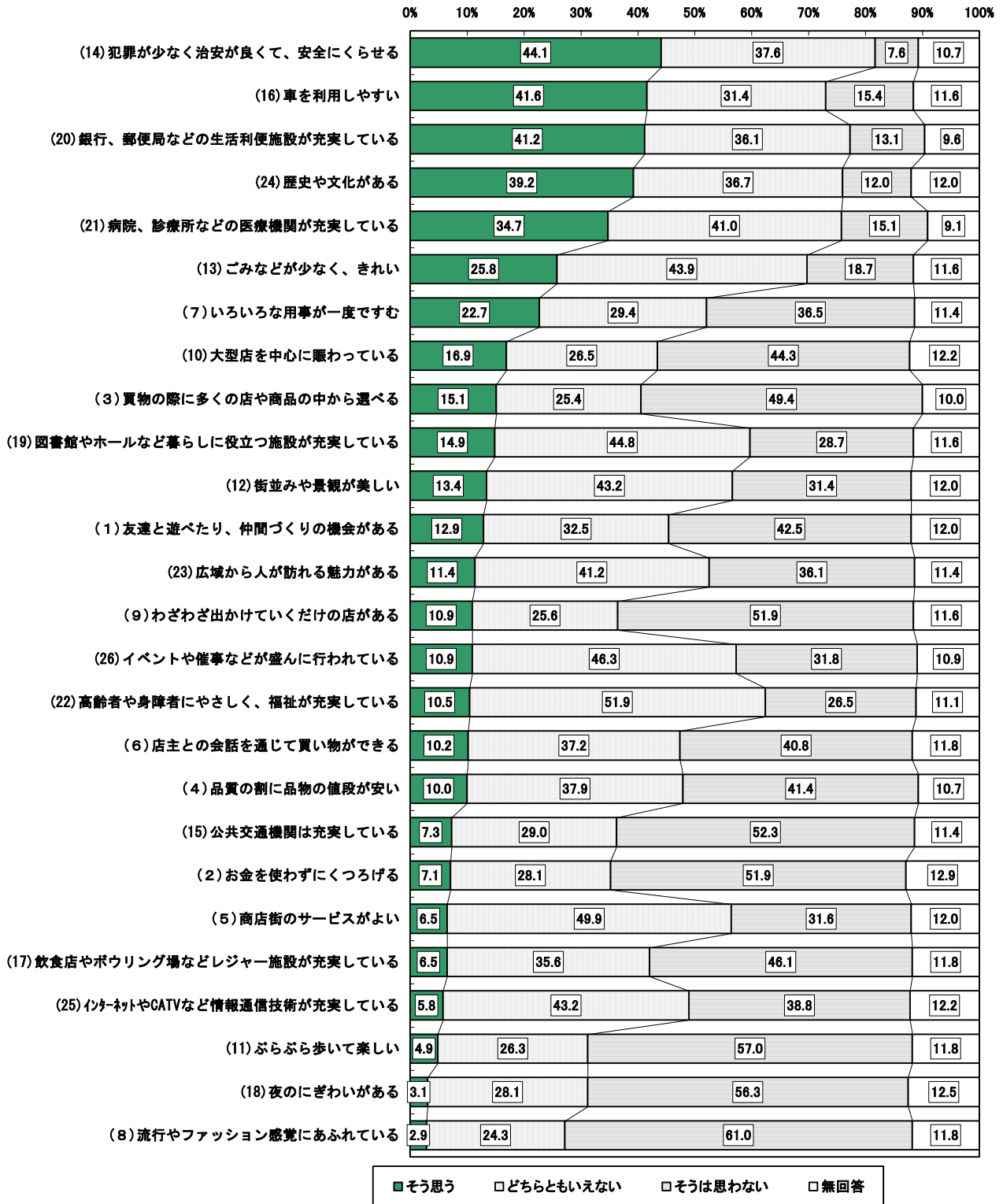
④ 中心市街地の印象

中心市街地の印象としては、「治安が良くて、安全に暮らせる」の項目の評価が最も高く、次いで「車を利用しやすい」、「生活利便施設が充実している」、「歴史や文化がある」、「医療機関が充実している」と続いている。一方、「流行やファッション感覚にあふれている」、「夜のにぎわいがある」、「ぶらぶら歩いて楽しい」といった項目の評価は低い。

これは、中心市街地には、サピアや日南山形屋といった大型商業施設があること、また、金融機関や医療機関が集積していること、更に、まちなかで歓楽街があるにも関わらず犯罪が少ないことなどから、居住性や生活利便性の評価が高いと思われる。それに加えて、国道をはじめ、歩車道分離の幹線道路が多く、渋滞が少ないことや、事業所や店舗に駐車場が概ね完備されていることから、車で来街しやすい環境にあることも、市民の評価に繋がっていると思われる。

一方、大型商業施設はあるものの、商店街の営業店舗率も低く、ウィンドウショッピングなど、まちを回遊する楽しみが少ないことや、交通手段として車を使うことが多く、郊外や市外の様々な商業施設へ足を運ぶ機会も増えたことから、市民の意識として、中心商業地としての魅力が低くなっていると思われる。

■ 中心市街地の印象 ■



2) 中心市街地の施設・サービス等に対するニーズ

① 市街地整備・居住環境整備

市街地及び居住環境では、公園や休憩所等の「生活利便施設の整備」や、定住人口の増加を図るための「集合住宅等の整備」、そして「歴史的資産の有効活用」といったニーズが高い。

これは、市内でもインフラ整備が進んでいることから、利便施設の充実や港町油津固有の既存ストックの活用が求められていると考えられる。また、人口減少が危惧されていることから、定住人口の増加を図る施策が求められていると思われる。

そのほか、自由意見では、「空き地・空き家が多く、街が寂しい」との意見も挙げられている。

② 都市福利施設整備

都市福利施設では、ボウリング場やコンサートホール等の「集客・娯楽施設の誘致」や、老人ホーム等の「高齢者施設の設置」、そして「子育て支援施設の設置」といったニーズが高い。また、満足度と必要性の関係をみても、「集客・娯楽施設の設置」に関するスコアが高い。

これは、中心市街地にボウリング場はあるが、来街目的としての魅力が低いことから、新たな集客施設の立地が求められていると考えられる。また、高齢者施設や子育て支援施設は、1件も立地していないことから、都市福利施設の機能充実が求められていると思われる。

そのほか、自由意見では、「以前は立地していた映画館の復活」を望む声や、「まちなかに赤ちゃんルーム（授乳室等）が充実していないために足を運びづらい」との意見も挙げられている。

③ 商業環境整備

商業環境では、「大型商業施設」の立地や「日用品を販売する店舗の充実」、それと、「イベントの定期的な開催」や「オープンカフェなどのにぎわい空間の創出」といったニーズが高い。また、満足度と必要性の関係をみると、「情報発信施設の設置」に関するスコアが高い。

これは、中心市街地にも大型商業施設や日用品を販売する店舗はあるが、商店街の営業店舗率が低いことや、郊外や市外に新たに立地した商業施設と比較して、魅力に欠けることから、一度で買い物が済ませられるほどの品物の充実や、買い物以外でも楽しめるオープンカフェやイベントの開催など、一日ゆっくり過ごせる商業環境の整備が求められていると思われる。併せて、情報発信施設など、来街してもらう環境整備も求められていると思われる。

そのほか、自由意見では、「既存のサピアと日南山形屋を核に、商店街の充実を図る必要がある」との意見も挙げられている。

④ 交通環境整備

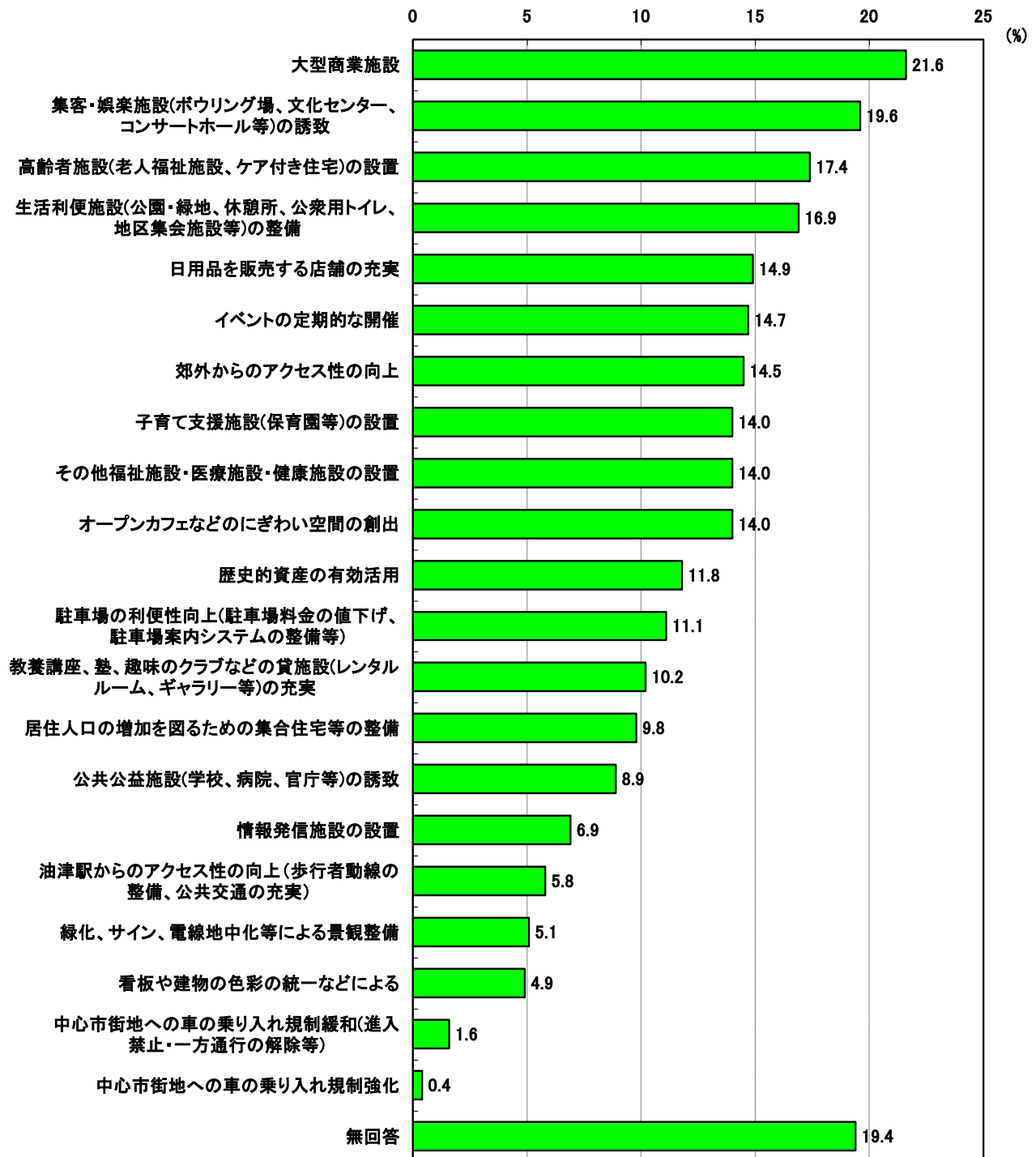
交通環境では、「郊外からのアクセス性の向上」や「駐車場の利便性向上」といったニーズが高い。また、満足度と必要性の関係をみても、「郊外からのアク

セス性の向上」に関するスコアが高い。

これは、幹線道路の整備状況や渋滞の少なさからみても、自家用車でのアクセ
ス性は良好であり、一方で、高齢者等の交通弱者にとっては、交通手段が限られ
ていることから、公共交通機関の利便性の向上を望む声と思われる。

また、自家用車で来街することが多い割に、中心市街地には、大きな駐車場が
ないことから、利用しやすい、広い駐車場の整備が求められていると思われる。

■ 中心市街地に必要な施設・サービス ■



(2) 油津地区住民との意見交換会

【実施状況】

時 期：平成22年6月3日（木）～15日（火）

対 象：油津地区に在住する住民

目 的：①意見交換やアンケートを通じて、地区内で実際に生活している住民のニーズを把握すること。
②中心市街地活性化を図るための市の考え方や事業内容を説明し、地区住民への啓発を行うこと。

方 法：市内回覧で広報し、油津地区14自治会8会場において、中心市街地活性化事業の趣旨説明を行った後、口頭及びアンケート用紙により自由意見を収集。

参加者：210人

意見数：のべ177件

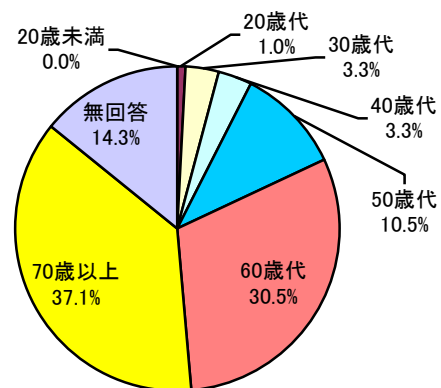
1) 参加者の属性

参加者は、男女概ね半数ずつを占め、最も多い年齢層は、70歳以上の37.1%で、60歳以上では67.6%であった。なお、40歳代以下の参加率は7.6%であり、若年層の参加者が少ない結果となった。

■性別■

男性	女性
50.5% (106人)	49.5% (104人)

■年代構成■



2) 中心市街地に対する要望

① 市街地整備

市街地の整備に関する意見は22件で、全体の12.4%を占める。主な意見としては、歩きやすい歩道などの道路整備を求める意見が4件、港を活かして憩いの場とする釣り公園の整備を求める意見が3件挙げられている。

市街地環境では、市内でもインフラ整備が進んでおり、新たな整備ではなく、道路環境の向上や既存ストックの有効活用が求められていると思われる。

② 都市福利環境整備

都市福利環境の整備に関する意見は22件で、全体の12.4%を占める。主な意見としては、子どもの一時預かりなど、子育て環境の向上を求める意見が9件、子どもの転出を抑止するため、公立学校の学力向上を求める意見が4件挙げられている。

都市福利環境では、子育て世代が安心して暮らせるように、高齢者からも子育

て環境の向上を望む声が多い。また、近年、宮崎市内への児童・生徒の転出が増えていることから、学力向上による子どもの流出抑制が求められていると思われる。

③ 居住環境

居住環境に関する意見は12件で、全体の6.8%を占める。主な意見としては、人口減少を抑止するため、若者が定住するための施策を求める意見が5件、市外からの移住を促進させる施策を求める意見が3件挙げられている。

居住環境では、人口減少や少子高齢化の進展が背景にあることから、若者を中心とした定住人口の増加を図ることが求められていると思われる。

④ 商業環境整備

商業環境の整備やにぎわい創出を図るための意見は46件で、26.0%を占め、地域の住民が最も関心をもっている事項であると考えられる。主な意見としては、観光地として交流人口を増加させる施策を求める意見が17件、商店街のテナント家賃が高く、出店する人がいないとの意見が7件挙げられている。

商業環境では、既存の形態では集客できる魅力が少なく感じていることから、既存ストックや地域資源を活かした交流人口の増加を図ることが求められていると思われる。

⑤ 交通環境整備

交通環境に関する意見は10件で、5.6%を占める。そのうち6件は地区外からの来街者の利便性向上のための駐車場の整備を求める意見で、残りの4件は、地区内の回遊性向上のため、循環型コミュニティバスの運行を求める意見が挙げられている。

交通環境では、まちなかに大きな駐車場がないことから、駐車場の整備が求められていると考えられる。また、中心市街地に隣接する地区では、公共交通機関の利便性が悪いことから、気軽に来街できる循環バスの運行が求められていると思われる。

(3) 日南看護専門学校学生との意見交換会

【実施状況】

日 時：平成22年7月15日（木） 17：00～18：30

対 象：中心市街地内に立地する日南看護専門学校（修学3年）の学生

目 的：油津地区住民との意見交換会では、参加者が高齢者に偏っていたため、若年層の意見を聞くことを目的に実施。

方 法：中心市街地内に立地する日南看護専門学校に直接依頼。専門学校内の学生の意見を集約した代表4名が参加（実習中の3年生を除く）。

参加者：A（男性：24歳）1年生。社会人の経験あり。

B（女性：18歳）1年生。高校卒業後入校。

C（女性：36歳）2年生。社会人の経験あり。

D（女性：33歳）2年生。5歳の子を持つ母親。

まちづくり推進室 室長、室長補佐、主任主事、主任技師 計4名

1) 中心市街地の印象

①意見

- ・ ほとんどの店が閉まっている。
- ・ お店の接客（もてなし）が悪い。
- ・ 人を引きつける匂いが無い（食べ物・海など）。

②分析

専門学校は、中心市街地内に立地しており、来街機会も多いと考えるが、若年層が魅力を感じる店舗等が少ないことから、中心市街地に対する印象が悪い。

2) 中心市街地に求める機能

①意見

- ・ 若者や子どもの遊べる場所。
- ・ 託児施設（美容室に行けば4～5時間はかかる。9時～18時くらいで利用できるといいし、高齢者とふれ合う形態でもいい）。
- ・ 堀川運河に噴水と木陰（今は木陰がなく、暑いときには歩きたくないが、噴水や木陰があれば、子どもを連れて何時間でも遊べる）。
- ・ 郊外店のような、店の前に止められるような大きな駐車場。
- ・ 買い物に来て、ついでに観て帰る、買い物以外の付加価値。
- ・ 何かやっていると思わせる定期的なイベント。
- ・ 港の店先で魚を焼いて食べさせるような店（マルシェ・ジャポン・キャラバンでは、「食」で賑わったため）。
- ・ 観光特急「海幸山幸」の運行に合わせた油津駅周辺での特産品販売。
- ・ 大型書店。
- ・ 映画館（宮崎市内まで行かなくてはならず、平日は行けない）。
- ・ カフェテラス（堀川運河周辺にあるといい）。

- ・ リタイアした高齢者向けに、景色のいい住宅、その下層階に高齢者が使える施設があるといい。
- ・ 複合的な機能を持ったビル。(全てがそこになくてもよく、不足しているものは、周辺にあればいい)。

②分析

中心市街地に、若年層が満足する店舗等が少ないこともあるが、ニーズが多様化していると感じられる。その中で、託児施設など一定の時間を有効に使えるものがあれば、来街したくなるといった、具体的な来街目的が把握できた。また、港周辺に魚を焼いて食べさせる店があるといいといった意見や、堀川運河周辺にカフェテラスがあるといいといった、油津らしい意見も得られたことは、今後の可能性を秘めていると思われる。

3) 魅力ある飲食店

①意見

- ・ 気兼ねせずにおしゃべりできる店。
- ・ 安い店。
- ・ 外国などの専門料理店があると、まずは行ってみたいくなる。

②分析

時間的に余裕のある若年層にとって、外国料理やおしゃべりができる店は、魅力的要素であり、来街頻度を高めるものであると考えられる。

4) イベントの情報提供等

①意見

- ・ 市外から通学する学生は、イベントをやっている場所が分からない。
- ・ 防災行政無線などで、イベント情報など提供できないか。
- ・ イベントに行っても、何か買おうかというものが売っていない。

②分析

イベント情報自体が届いていない状況から、情報発信の手法について検討する必要があるとともに、イベント時における若年層もターゲットにした出品の検討を行う必要がある。

(4) 子育て世帯の市民意識調査

【実施状況】

調査時期：平成24年1月20日（金）～平成24年2月10日（金）

調査対象：小学生以下の子を持つ市民を対象に無作為抽出した1,000世帯

調査方法：アンケート票を郵送し、返送により回収する郵送調査法

有効回答数：363人（回答率36.3%）

1) 回答者の属性

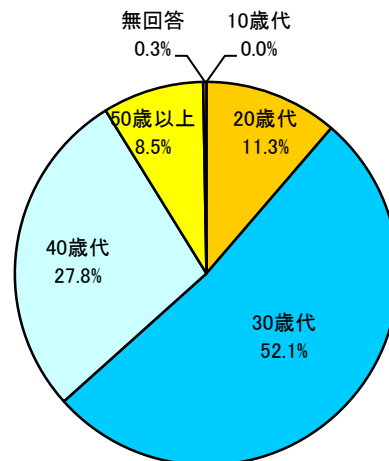
回答者の主な属性を見ると、年齢では20～30歳代が約3分の2を占めており、若い世代が多い。また、女性の勤労者が75.6%と高く、子育て世帯における女性の就労率の高いことが伺える。居住地区は、概ね人口比率に即しているが、中心市街地の居住者は約1割程度である。

また、居住形態は、持ち家・借家がほぼ半数で、借家に住んでいる世帯の家賃は2万円未満が23.1%と最も多いが、5万円以上の家賃の世帯も23.7%と高い。

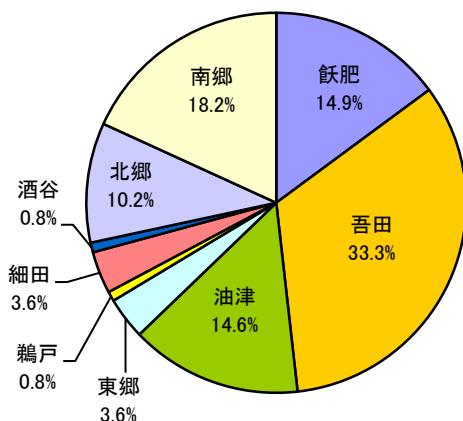
■性別■

男性	女性
33.3% (121人)	66.7% (242人)

■年齢構成■

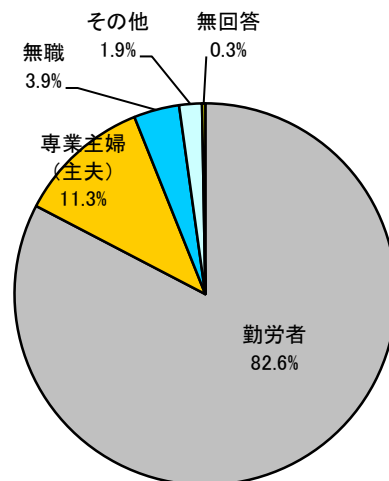


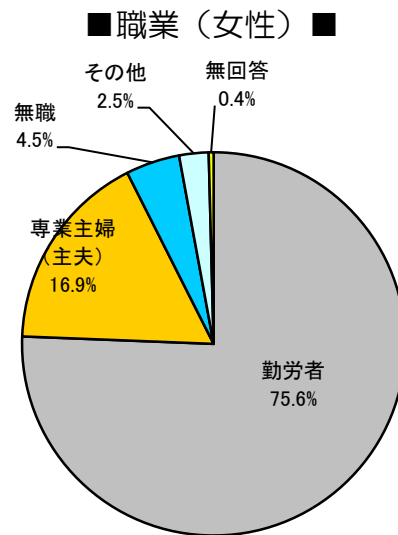
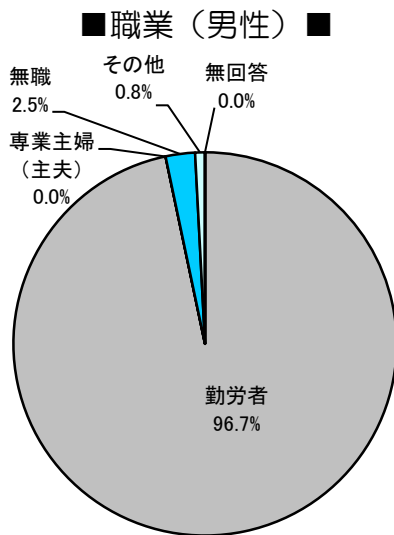
■居住地区■



中心市街地内	中心市街地外	無回答
8.5% (31人)	90.9% (330人)	0.6% (2人)

■職業（全体）■

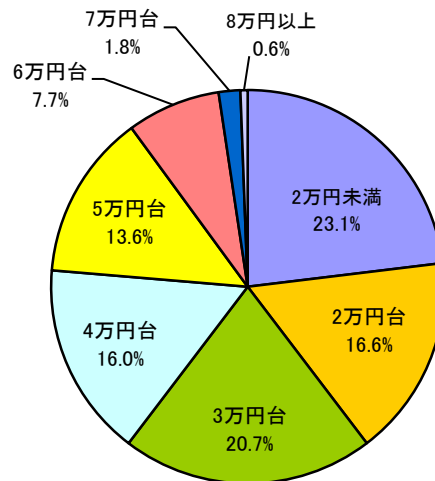




■居住形態■

持ち家	借家
53.4% (194人)	46.6% (169人)

■家賃■



2) 居住に関する調査結果

① 中心市街地への居住に対する意識

現在、中心市街地外に居住されている人に、「中心市街地へ住みたいと思うか」について伺った結果、86.1%の人が「住みたいと思わない」と回答している。

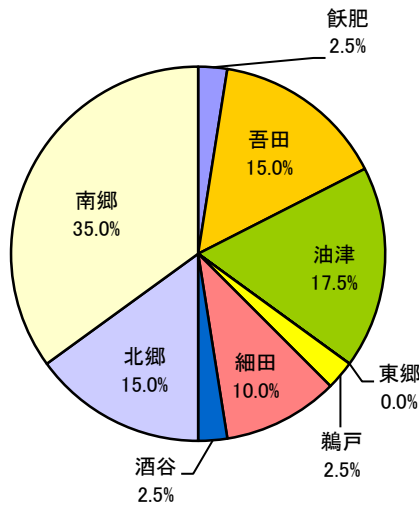
一方、「住みたいと思う」と回答した人の現在の居住地区は、南郷地区の35.0%が最も多く、南郷地区居住者だけで見ると約2割の人が、中心市街地を有する油津地区においては、約3割の人が「中心市街地内に住みたいと思う」と回答している。

なお、「住みたいと思う」と回答した人の中で、持ち家の人が多い点が特徴的である。

■ 中心市街地に住みたいと思うか（現在中心市街地外に居住している人：n=330） ■

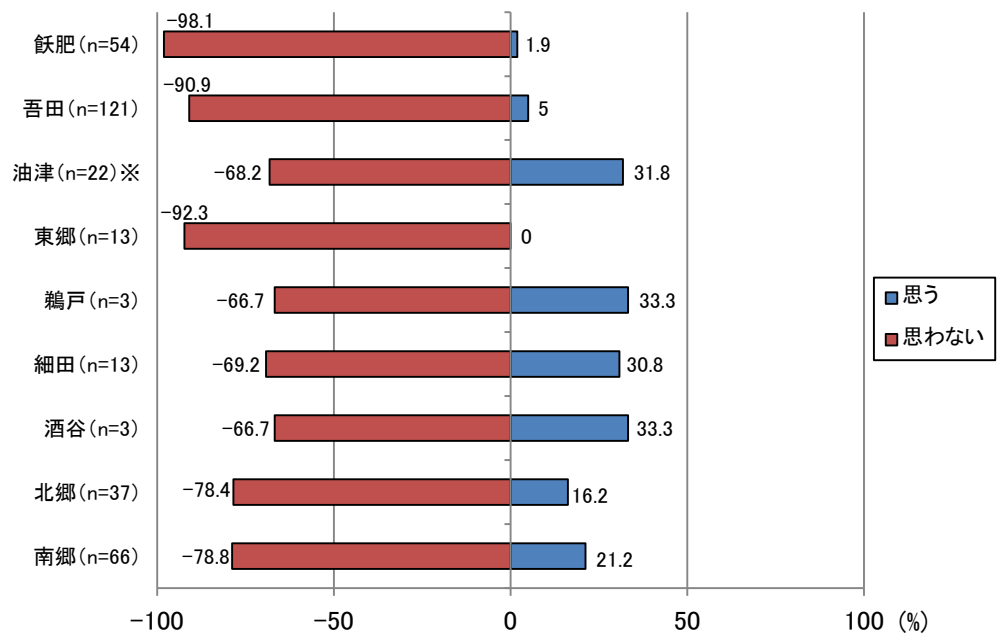
思う	思わない	無回答
12.1% (40人)	86.1% (284人)	1.8% (6人)

■ 居住したいと思う人の現在の居住地区（n=40） ■ ■ 住みたいと思う人の現在の居住形態（n=40） ■



持ち家	借家等
55.0% (22人)	45.0% (18人)

■ 中心市街地への居住に対する意識（地区別） ■



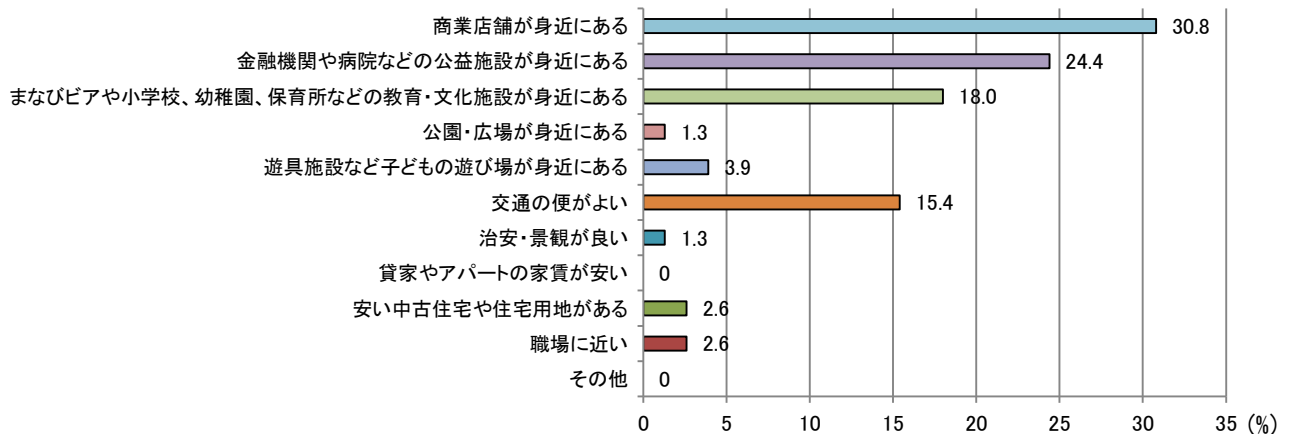
※油津地区は、中心市街地外に居住している人を対象に算出。

※無回答の回答率は、グラフ中に記載していないため、合計値は必ずしも 100%とにならない。

② 中心市街地に居住したい理由

中心市街地に居住したいと思う理由は、「商業店舗が身近にある」が30.8%と最も多く、次いで「金融機関や病院などの公益施設が身近にある」が24.4%と、日常生活に必要な機能が身近にあることが、住みたい理由とされていることがわかる。

■居住したい理由（n=76）■



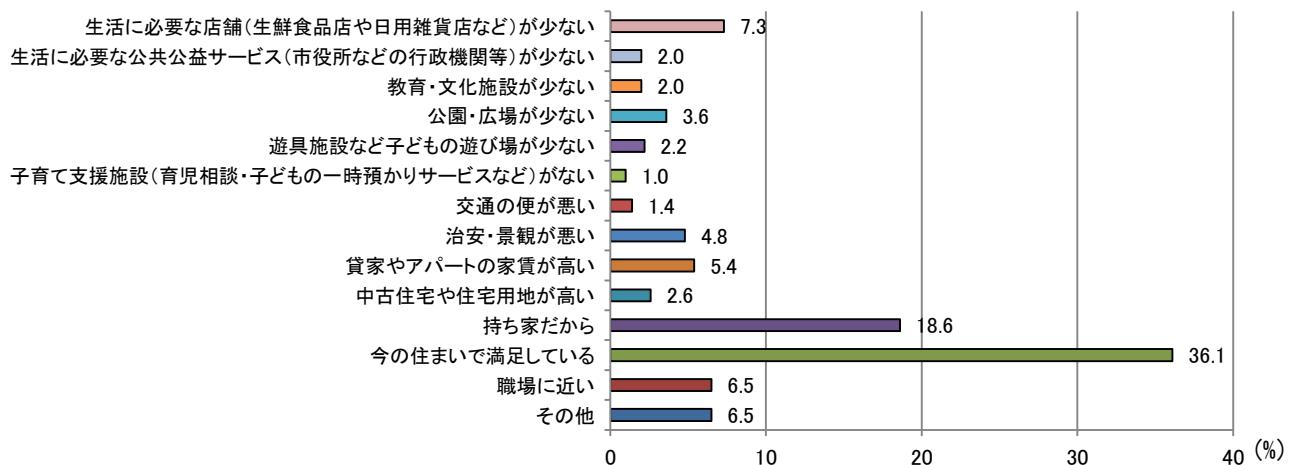
③ 中心市街地に居住したくない理由

中心市街地に居住したくないと思う理由は、「今の住まいで満足している」が36.1%と最も多く、「持ち家だから」が18.6%、「生活に必要な店舗が少ない」が7.3%と続いている。

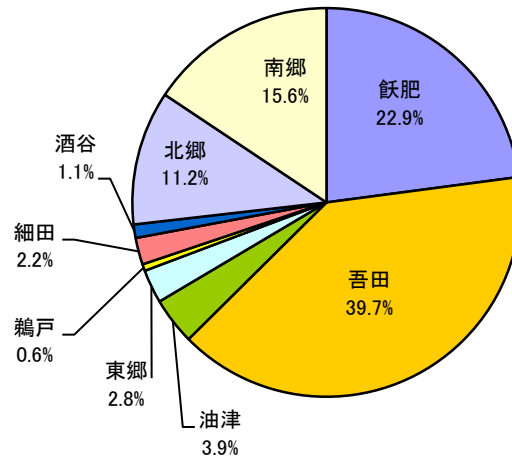
このようなことから、中心市街地は、機能的な不満などにより、住みたいと思える魅力が低いと思われる。

「今の住まいで満足している」と回答された方の居住地区は、吾田地区が39.7%と最も多く、次いで飢肥地区、南郷地区、北郷地区が10%を超えているが、これは地区内に行政機能、公共公益機能（金融機関・病院など）、商業機能が立地しているからであると思われる。

■居住したいと思わない理由（n=498）■



■今の住まいで満足していると回答した方の居住地区（n=179）■



④ 中心市街地に子育て世帯が住みたくなるとする機能（サービス）

「商業機能」では、「生活に必要な店舗」が25.7%と最も多く、日常生活に必要な商業の充実が求められていることがわかる。

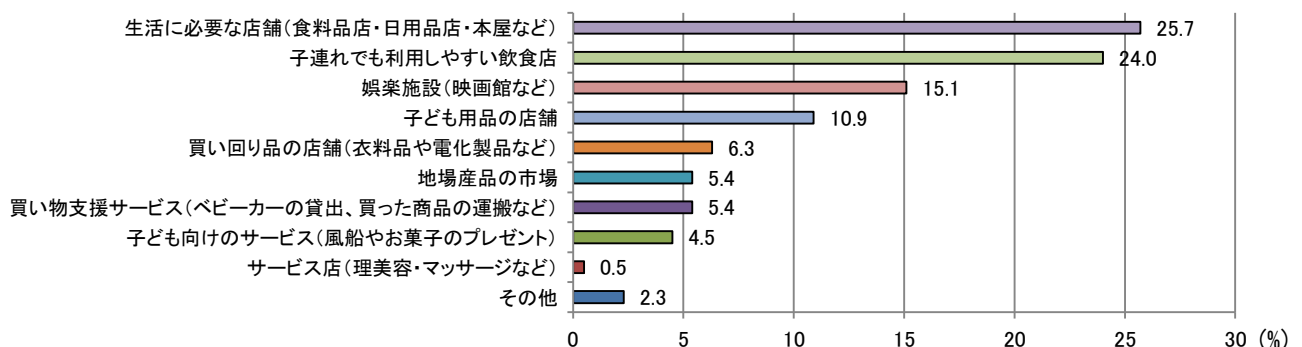
また、「子連れでも利用しやすい飲食店」や「娯楽施設」の回答も多く、子どもと気軽に出かけられたり、日常生活の中でのちょっとした息抜きができたりする店舗が身近に必要であると感じられていると思われる。

「都市機能」では、「遊具のある屋根付きの屋外スペース」が17.5%と最も多く、また、ほぼ同率で「子育て世帯向けの低家賃アパート」と回答されており、「遊具のある屋根付きの屋外スペース」や「遊具や水遊びのできる公園」、「子育て支援センター」といった回答が多いことから、子どもを遊ばせる機能が求められていることがわかる。

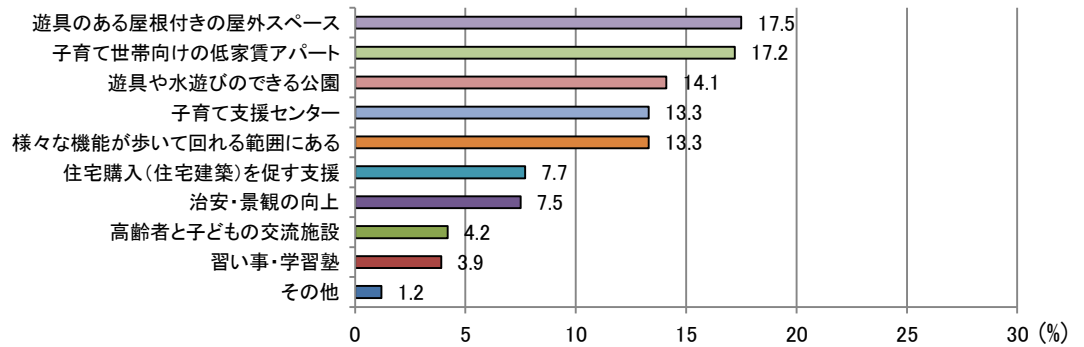
また、「子育て世帯向けの低家賃アパート」や「住宅購入（住宅建築）を促す支援」といった居住支援を、約4分の1の方が必要であると感じており、特に、現在、借家等に居住されている方に限ると、55.6%の方が必要だと感じている。

更に、「様々な機能が歩いて回れる範囲にある」が13.3%と比較的高い割合であり、これは自由意見にもあるとおり、車社会にあっても、用事（施設）毎に、子どもを車へ乗せたり降ろしたりすることを軽減したいといった背景があると思われる。

■中心市街地に住みたくなる機能（商業機能：n=664）■



■ 中心市街地に住みたくなる機能（都市機能：n=678） ■



■ 居住支援に対する意識（居住形態別） ■

	低家賃	建築支援	両方必要	合計
持ち家 (n=194)	20.6% (40人)	6.7% (13人)	2.6% (5人)	29.9% (58人)
借家等 (n=169)	36.1% (61人)	14.2% (24人)	5.3% (9人)	55.6% (94人)

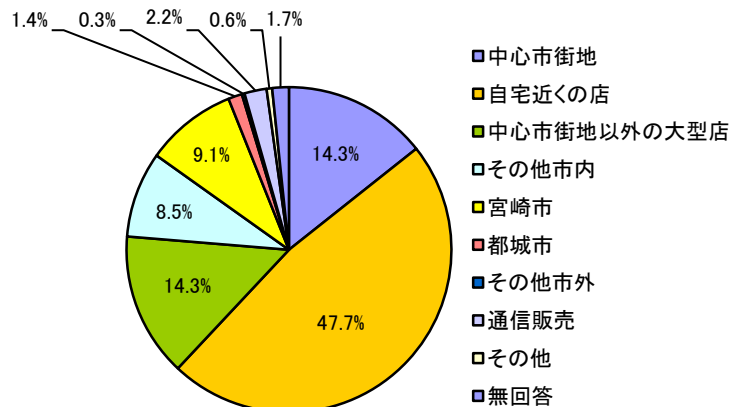
3) 来訪に関する調査結果

① 普段の主な買い物場所

「自宅近くの店」が 47.7%と最も多く、次いで「中心市街地」、「中心市街地以外の大型店」が同率の 14.3%であり、このことから、普段の買い物等は、大型店でなければならないというものではなく、自宅から近い場所が選ばれていることがわかる。

また、普段の買い物等であっても、1割を超える人が市外を利用されていることから、将来の高速道路開通を考えると、消費（経済）の流出に危機感を持たなければならない状況にあると思われる。

■ 普段の主な買い物場所（n=363） ■



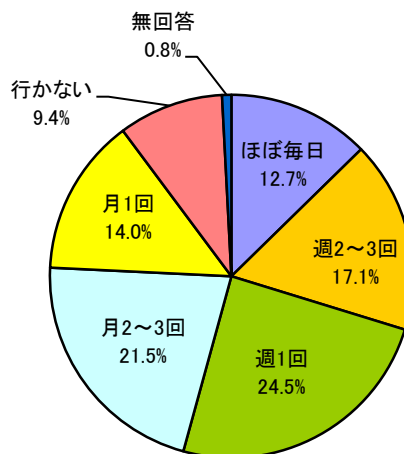
② 中心市街地に訪れる頻度

「週1回程度」が24.5%と最も多く、また、週1回以上訪れる方は、全体の54.3%と、現状でも比較的高い頻度で中心市街地に訪れていることがわかる。

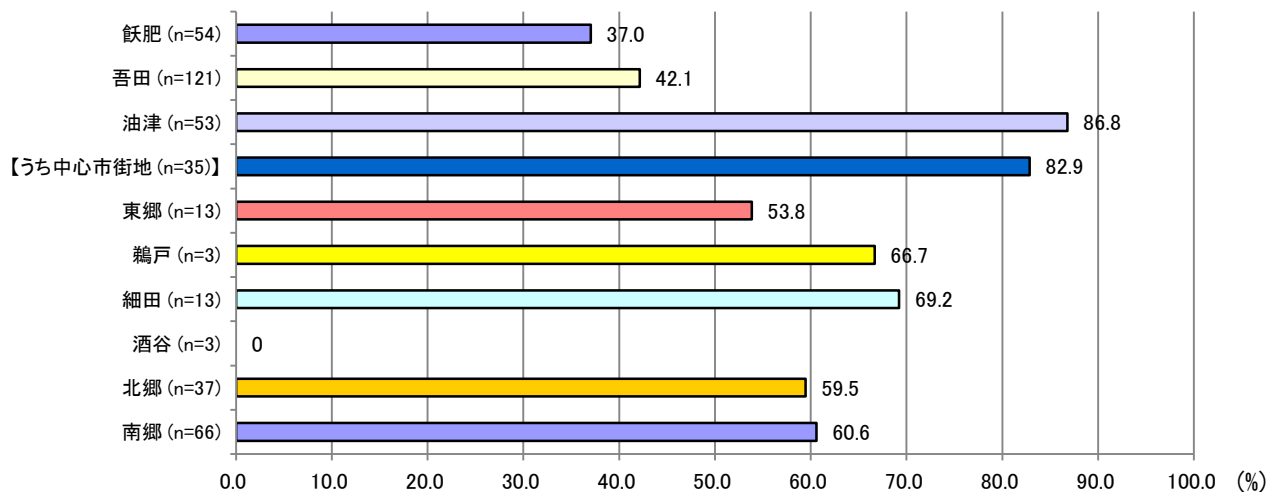
週1回以上訪れる方を居住地区別にみると、飢肥・吾田地区を除いては、各地区とも半数以上の方が週1回以上は訪れていることがわかる。

なお、酒谷地区においては、結果が0%となっているが、参考とする回答数が極めて少ないため、実際の動向とは異なるものと思われる。

■ 中心市街地に訪れる頻度 (n=363) ■



■ 週1回以上訪れる割合 (居住地区別) ■

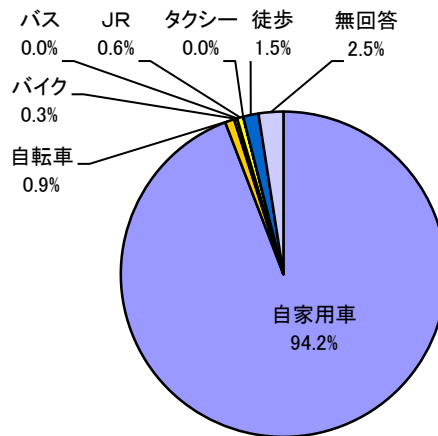


③ 中心市街地に訪れる際の交通手段

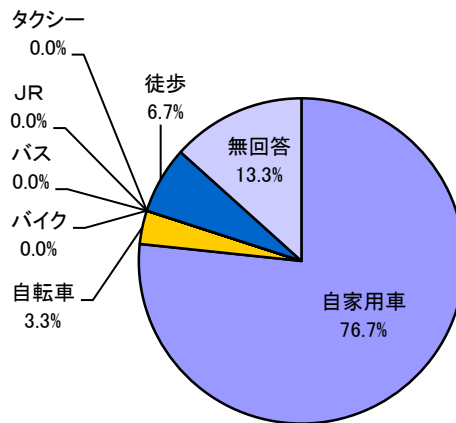
他のアンケートと同様に「自家用車」が94.2%と圧倒的に多く、バスやJR、タクシーといった公共交通はほとんど利用されていない状況であることがわかる。

また、中心市街地の居住者において、76.7%が「自家用車」で訪れていることから、単に広範囲に移動するためだけではなく、荷物を運んだり、子どもと出かけたりするにあたって、最も便利な交通手段とされていることがわかる。

■ 中心市街地に訪れる交通手段（全体：n=326） ■



■ 中心市街地に訪れる交通手段（中心市街地居住者n=30） ■



④ 中心市街地を訪れる主な目的

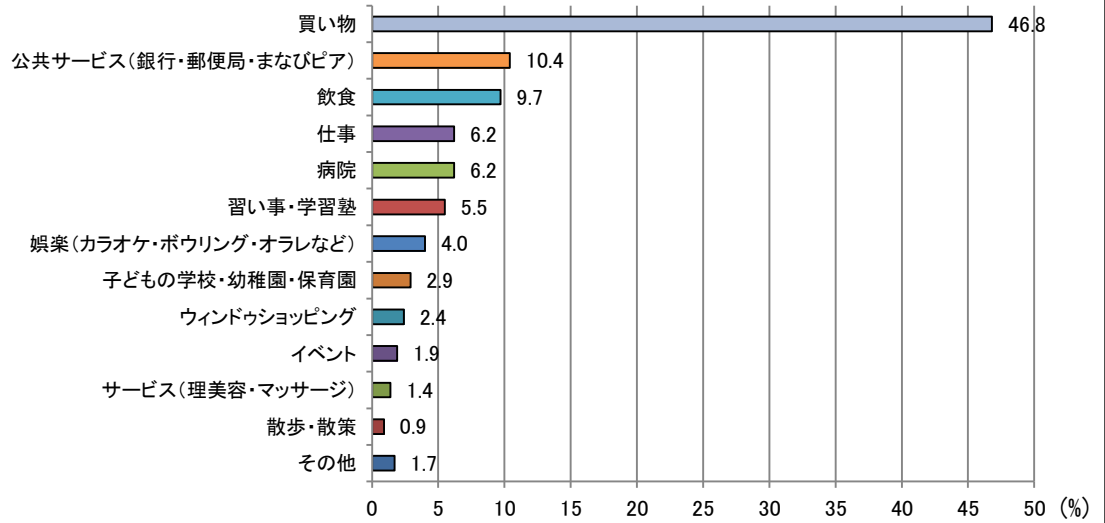
「買い物」が 46.8%と圧倒的に多く、次いで「公共サービス」や「飲食」が約 10%となっている。

また、中心市街地が位置する油津地区の居住者とその他の地区の居住者の動向をみると、どちらも買い物目的で訪れる割合が突出していることから、中心市街地には県南地区最大の売場面積を持つサピアや、県内でも宮崎市と本市にしかない百貨店である日南山形屋といった他地区にはない店舗が立地していることが背景にあると思われる。

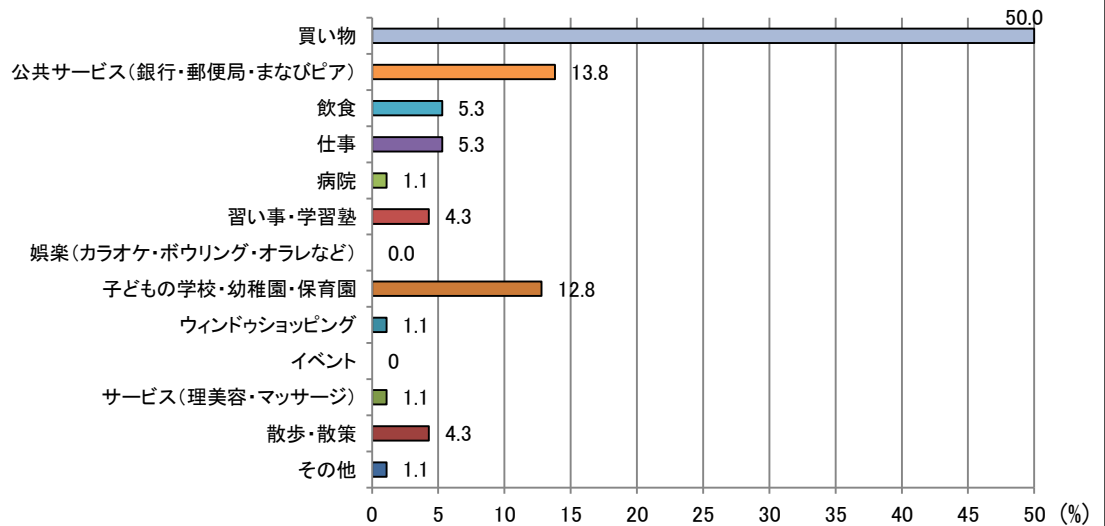
しかし、そのような商業施設があるにもかかわらず、油津地区の居住者が買い物で訪れる割合が、その他の地区の居住者と同程度であることは、市内の他の商業施設と比べ、油津地区の居住者が求める商業施設が、中心市街地に充分揃っていないことが原因であると思われる。

また、「飲食」、「病院」、「習い事・学習塾」、「娯楽」、「イベント」については、油津地区の居住者は全体の割合を下回り、その他の地区の居住者では全体を上回っていることから、油津地区の居住者は、日常的な目的で中心市街地を訪れ、その他の地区の居住者は、非日常的な目的で中心市街地を訪れる傾向にあると思われる。

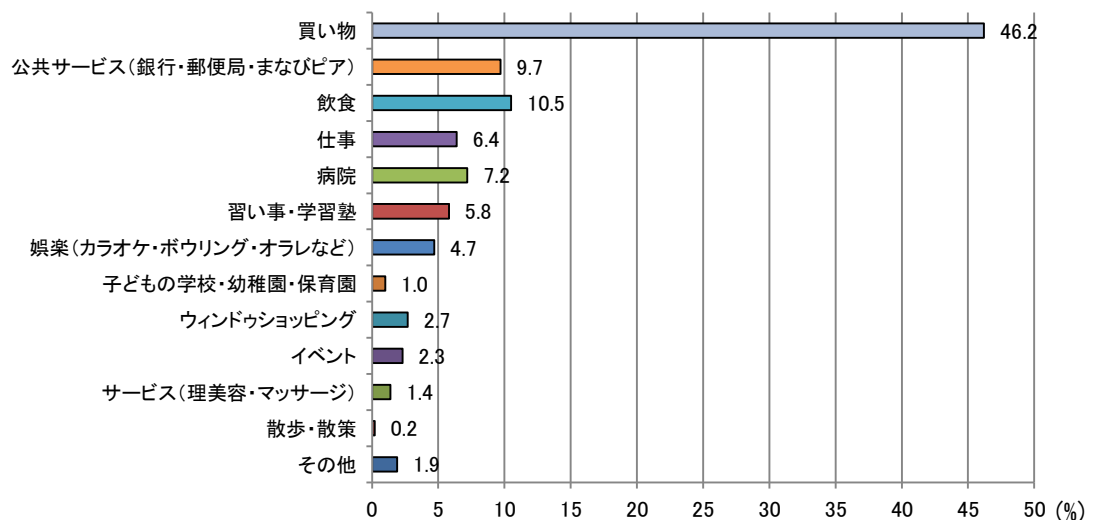
■ 中心市街地を訪れる主な目的（全体：n=581） ■



■ 中心市街地を訪れる主な目的（油津地区：n=96） ■



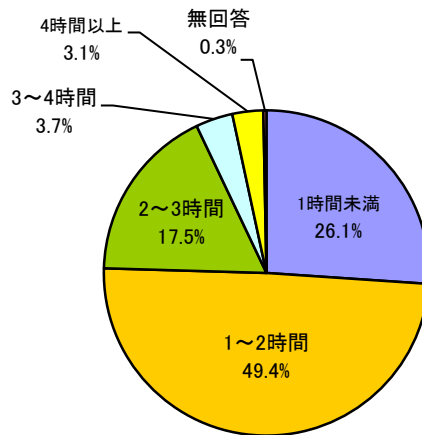
■ 中心市街地を訪れる主な目的（油津地区以外の地区：n=485） ■



⑤ 中心市街地での滞在時間

「1 時間以上 2 時間未満」が 49.4%と圧倒的に多く、また、訪れた方の約 4 分の 3 が、2 時間未満の滞在となっており、現在の中心市街地は、ゆっくりと時間を過ごせる場所ではないと思われる。

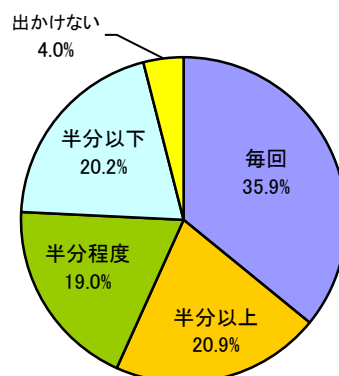
■ 中心市街地での滞在時間 (n=326) ■



⑥ 中心市街地へ子どもと一緒に出かける頻度

子ども連れで中心市街地を訪れる頻度は、「毎回」が 35.9%と最も多くなっており、また、56.8%の方が、出かける際の半分以上は子ども連れであるという結果から、子育て世帯の方は、子ども連れでないとは出かけにくい環境下にあると言える。

■ 子どもと出かける頻度 (n=326) ■



4) 中心市街地の魅力形成に関する調査結果

① 中心市街地の満足度

ア 商業機能

「満足している(その他を除く)」回答項目が 534 件だったことに対し、「満足していない(その他を除く)」回答項目が 874 件で、また、その他の項目で「満足するものが何も無い」との回答が 29 件あったことから、中心市街地の商業機能は、全般的に満足されていないことがわかる。

項目別に見ると、「買いたい商品」や「商品の値段」は満足度が高いと言えるが、「魅力的な店舗（商品）」は圧倒的に不満に感じられている。更に、「中心市街地を訪れる目的」で「ウィンドゥショッピング」が低回答だったことから、中心市街地には、日常生活に必要な商品は、手頃な価格で充実しているが、見るだけでも楽しめる魅力的な店舗（商品）が不足していると評価されていると思われる。

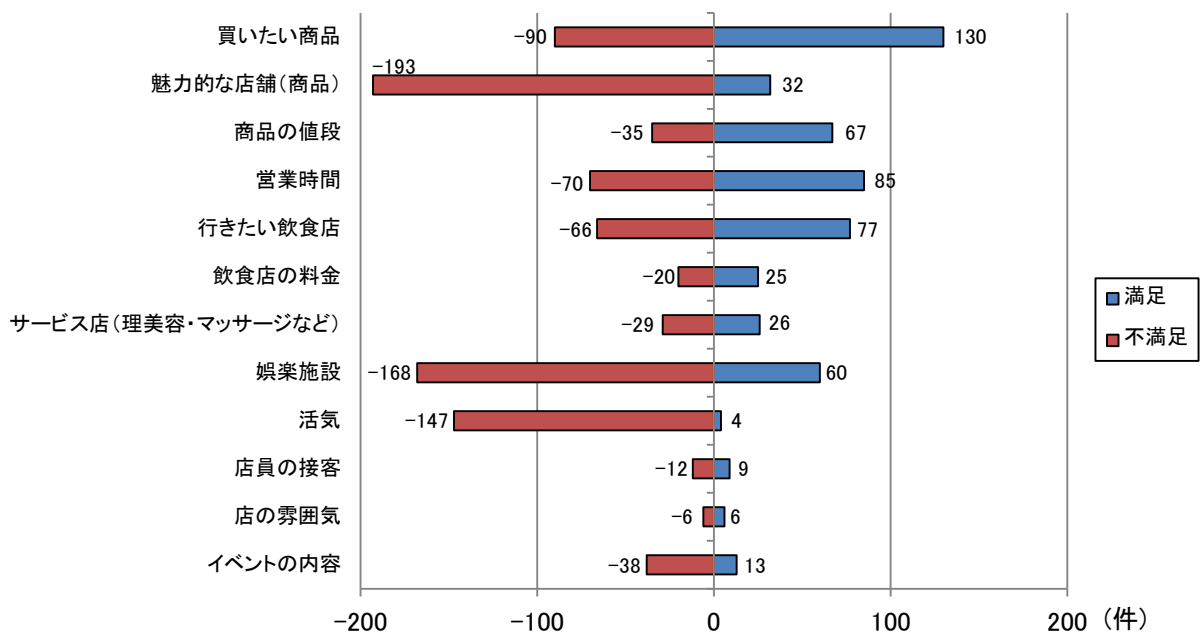
また、ボウリング場やカラオケ店などの「娯楽施設」は、市内でも中心市街地にしか立地していないにもかかわらず満足されていない。「娯楽施設」は中心市街地に限らず、市内全域で不足していると思われる機能であるが、中心市街地としての不満要素が強い点は、中心市街地が楽しめる要素を持つ必要があるとの期待の裏返しであると思われる。

更に、「活気」も圧倒的に不満を持たれ、また、活気を生むための「イベントの内容」についても不満を持たれている。これらの背景には、中心市街地は、様々な人で賑わう場所というイメージを持たれているからであり、また、イベントも、様々な人が集まり、楽しめる内容となっていないと評価されていると思われる。

他の項目については、満足・不満足が概ね同じであるが、中心市街地としての魅力を形成するためには、満足度を高めていく必要がある。

また、満足している項目で「その他」と回答された中には、サピアや日南山形屋といった、市内でも大きい商業店舗が立地していることが挙げられている。

■機能・サービスの満足度（商業機能）■



イ 都市機能

「満足している（その他を除く）」回答項目が516件だったことに対し、「満足していない（その他を除く）」回答項目が739件であることから、中心市街地の都市機能は、全般的に満足されていないことがわかる。

項目別に見ると、「駐車場や駐輪場」、「公共公益施設」、「教育・文化施設」、「街全体のわかりやすさ」といった点で満足され、反面、「公共交通機関」、「様々な機能が歩いて回れる範囲に立地」、「子連れで行ける施設」、「公園」、「休憩場所」、「トイレの利便性」については、不満を持たれている。

「駐車場や駐輪場」については、サピアや日南山形屋といった大型商業店舗が一団の駐車場を有しているほか、各公共公益施設が専用駐車場を有しているからであると思われる。

「公共公益施設」については、市内に5つある金融機関全ての支店や郵便局が立地していること、多くの病院が立地し、多様な診療科があること、サピアに住民票などの諸証明が交付できる市民サービスコーナーあることやまなびピアで市税の納付ができるなどの行政サービスが利用できることといった機能が集積している点が評価されていると思われる。

「教育・文化施設」については、保育所・幼稚園・小学校や市内唯一の専門学校といった、教育施設が集積していることに加え、図書館機能も有する市の生涯学習施設まなびピアが立地していることで満足されていると思われる。

「公共交通機関」については、中心市街地が市内公共交通の起点となる場所であるなか、利用者の減少に伴う便数の減少や乗車料金の設定に不便を感じていると思われる。

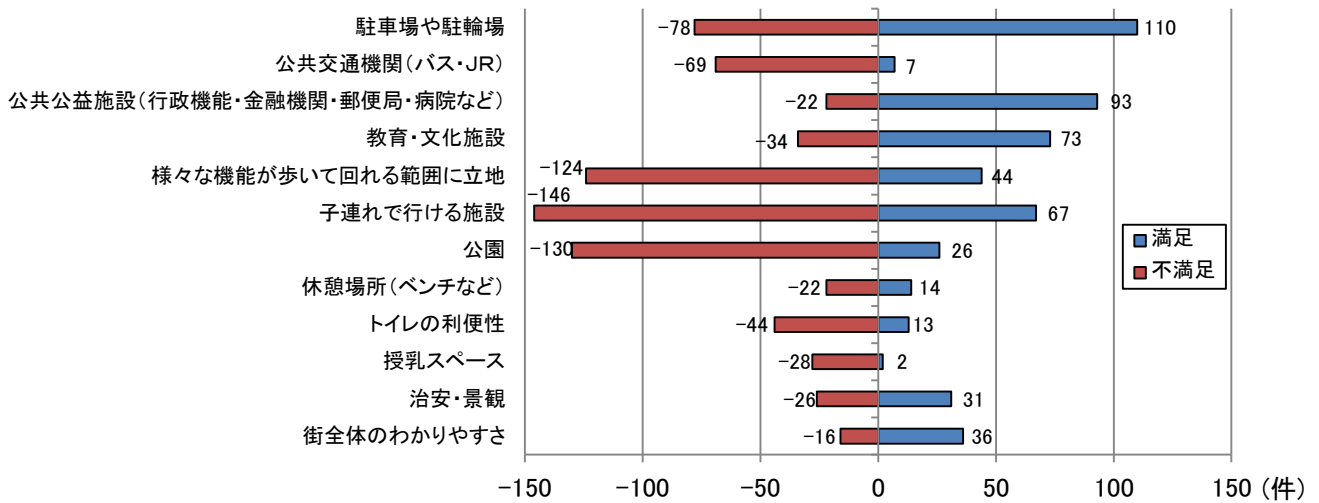
「様々な機能が歩いて回れる範囲に立地」については、中心市街地には都市機能が集積しているものの、市民には、歩いて回れる範囲に様々な機能があるとは認識されていないと思われる。

しかしながら、この項目が高い関心を持たれ、また、「住みたくなくなると思う機能」においても高い割合で求められていることから、中心市街地は「様々な機能が歩いて回れる範囲に立地」している場所であるということが意識されていると思われる。

「子連れで行ける施設」、「公園」、「授乳スペース」といった、子育て世帯に密接な機能に対して不満が多い点は、中心市街地が多様な人が訪れる場所となるうえで、改善を必要な点であると考えられる。また、「トイレの利便性」について、自由意見で「子ども用の便器がなく不便」といった意見もあり、オムツ替えの施設はあるものの、小さな子どもが自分で用を足す施設が不足していることがわかる。

「街全体のわかりやすさ」は、回答数は少ないものの満足度が高いことから、まちがわかりやすくコンパクトに形成されていると思われる。

■機能・サービスの満足度（都市機能）■



② 中心市街地に求める機能（サービス）

中心市街地にどのような機能（サービス）等があれば、今より訪れる機会や滞在時間が増えると思うかを、「商業機能」、「都市機能」の二項目に分けて伺った。

ア 商業機能

「中心市街地に住みたくなくなると思う機能」と同様に、「生活に必要な店舗」が18.4%と最も多く、日常生活に必要な商業店舗が充実することで、訪れる機会（用事）が増えると感じられていることがわかる。更に、「子ども用品の店舗」も1割強の方が求めており、子育て世帯の方が訪れるためには必要な業種であると思われる。

また、「娯楽施設」や「子連れでも利用しやすい飲食店」、「カフェやファーストフード店」といった機能を4割強の方が求めていることから、中心市街地は、日常的には利用しない「楽しむ・息抜きする」といった機能を有する場所として期待されていると思われる。

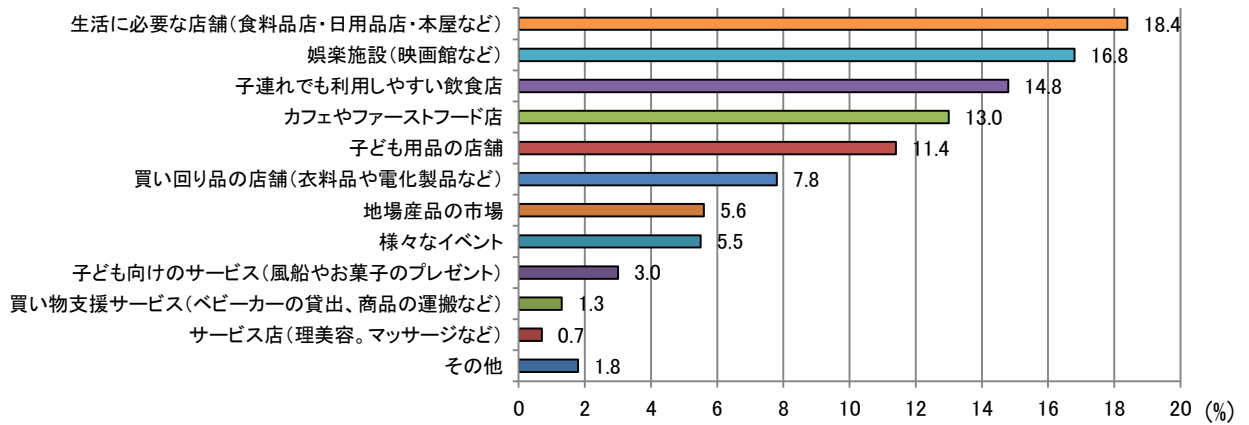
イ 都市機能

「遊具のある屋根付きの屋外スペース」が17.0%と最も多く、更に、「遊具や水遊びができる公園」、「子育て支援センター」といった機能が多く求められていることから、子どもが楽しめる場所の充実が必要であると思われる。

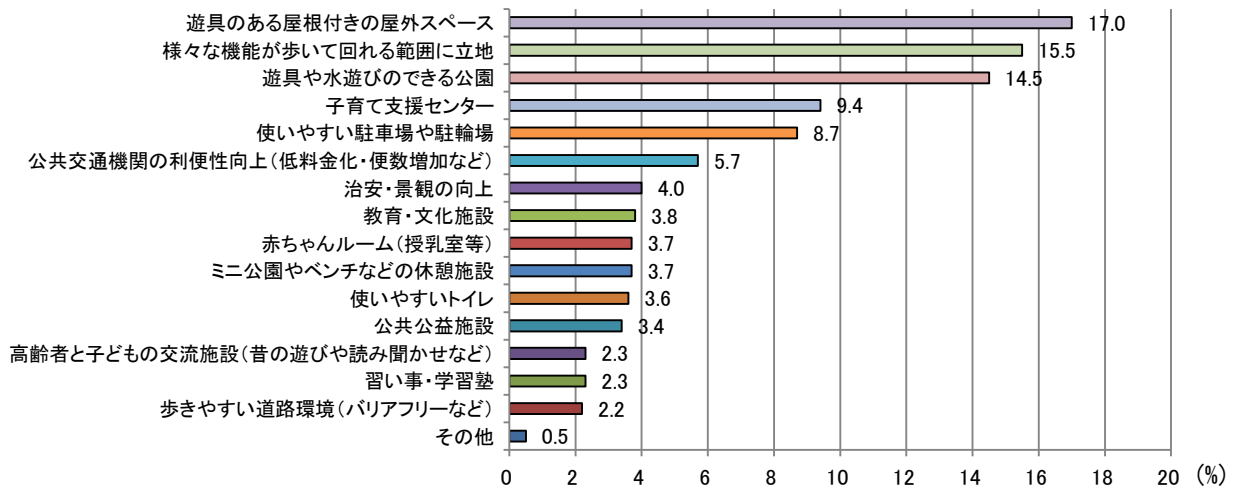
また、「様々な機能が歩いて回れる範囲に立地」は、「中心市街地に住みたくなくなると思う機能」と同様に15.5%と割合が高いことから、車社会にあっても、用事（施設）毎に、子どもを車へ乗せたり降ろしたりすることを軽減したいといった背景が見受けられる。

更に、「使いやすい駐車場や駐輪場」や「公共交通機関の利便性向上」といった、来街利便性の向上についても14.4%と、比較的高い割合で求められている。

■ 中心市街地に求める機能・サービス（商業機能：n=895） ■



■ 中心市街地に求める機能・サービス（都市機能：n=865） ■



(5) 若い世代の市民意識調査

【実施状況】

調査時期：平成24年1月20日（金）～平成24年2月10日（金）

調査対象：15歳から39歳までの市民（子育て世帯向けアンケートで抽出された市民を除く）を対象に無作為抽出した1,000人

調査方法：アンケート票を郵送し、返送により回収する郵送調査法

有効回答数：296人（回答率29.6%）

1) 回答者の属性

回答者の主な属性を見ると、年齢では35～39歳22.6%と最も多く、次いで19歳以下が22.3%と多い。居住地区は、概ね人口比率に即している。

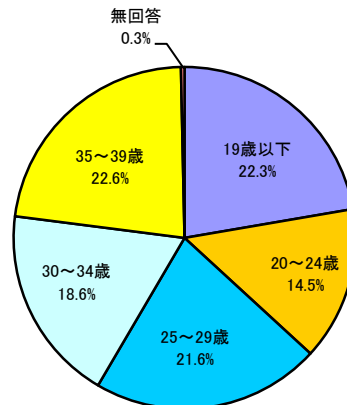
職業は、勤労者が59.5%と最も多いが、学生が24.3%と全体の約4分の1を占める。

また、回答者の28.7%は、小学生以下の子どもを持つ方である。

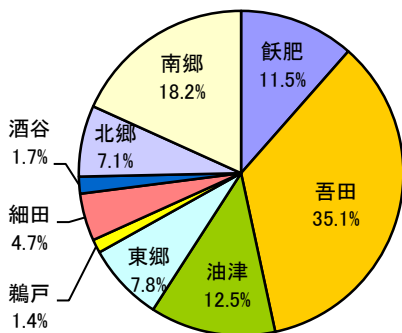
■性別■

男性	女性	無回答
41.9% (124人)	57.8% (171人)	0.3% (1人)

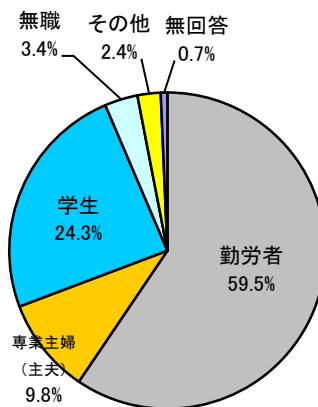
■年齢構成■



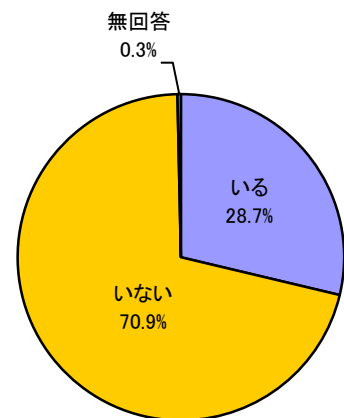
■居住地区■



■職業■



■子どもの有無■



中心市街地内	中心市街地外	無回答
8.8% (26人)	90.9% (269人)	0.3% (1人)

2) 来訪に関する調査結果

① 普段の主な買い物場所とその理由

普段の買い物等は、「自宅近くの店」が34.5%と最も多く、次いで「宮崎市」が27.4%である。また、その場所を利用する理由としては、「自宅から近い」が25.8%と最も多く、次いで「買いたい商品がある」が18.7%である。

買い物場所別に理由をみると、自宅近くの店を利用すると回答された方の56.3%が「自宅から近い」で、次いで「商品が安い」、「買いたい商品がある」が1割を超えているが、その他の理由は5%未満の回答であった。

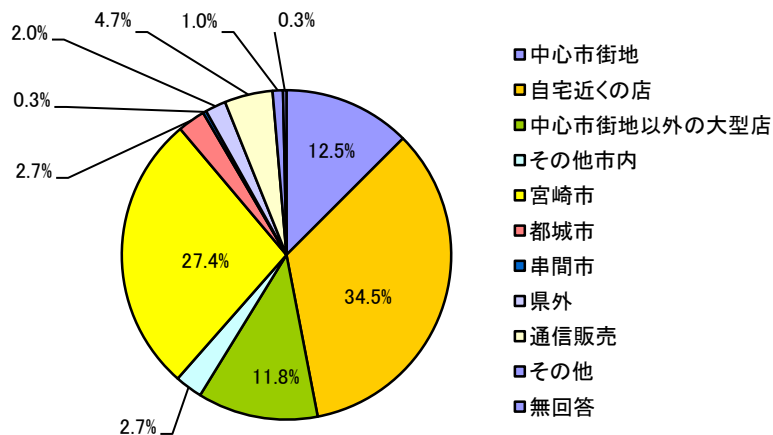
これらのことから、普段の買い物等は、自宅近くで買いたい商品のある場所が主な買い物場所に選ばれていると推測できる。

また、宮崎市を利用すると回答された方では、「買いたい商品がある」が26.0%で最も高く、次いで「魅力的な商品がある」、「品数が多い」、「行くだけでも楽しい」がそれぞれ2割弱となっている。

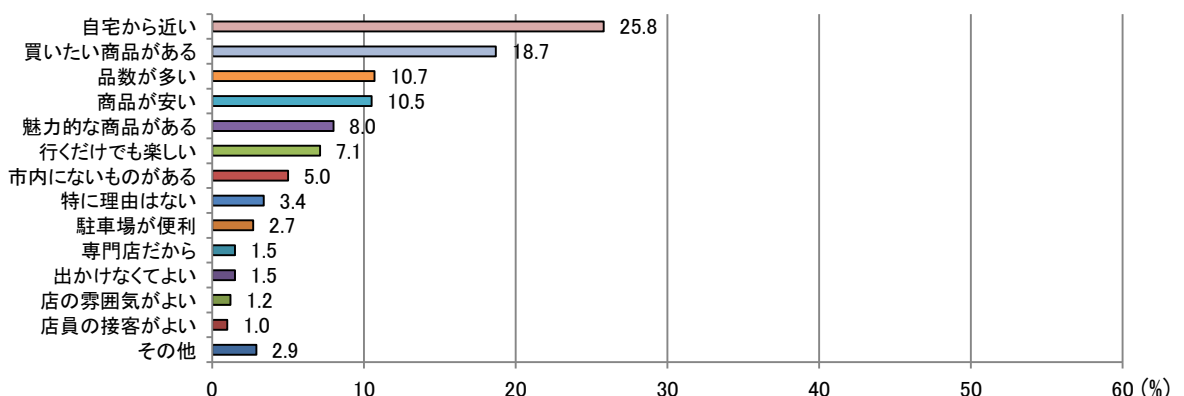
また、「宮崎市」で主に買い物している方の年齢層は、19歳以下が34.6%と最も多く、次いで25～29歳が13.6%と、10～20歳代の方で約4分の3を占めており、年齢の若い人ほど、宮崎市で買い物をされていることがわかる。

若い世代の4分の1、特に10～20歳代が主に宮崎市へ買い物に訪れており、将来の高速道路の開通を鑑みると、本市経済に大きな影響を与えることが懸念される。

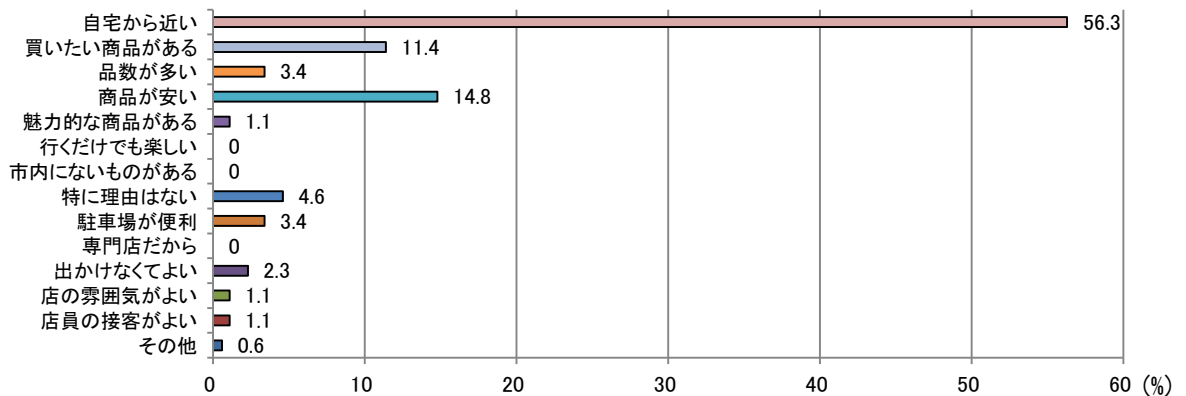
■ 普段の主な買い物場所 (n=296) ■



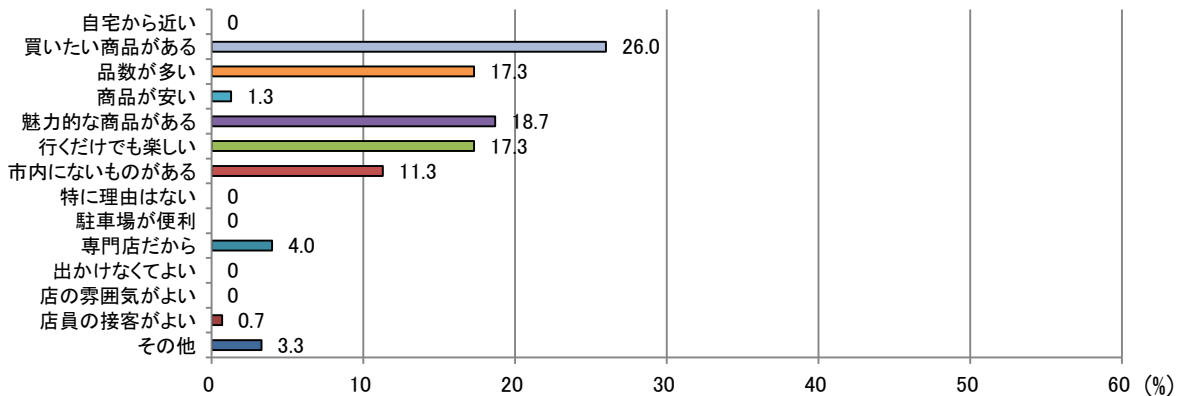
■ 利用する理由 (全体：n=524) ■



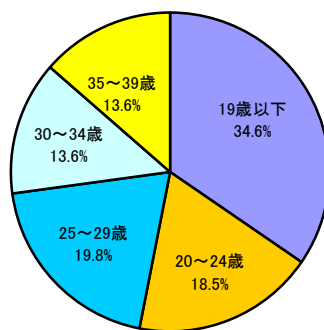
■自宅近くの店を利用する理由（n=176）■



■宮崎市を利用する理由（n=81）■



■宮崎市で主に買い物をする人の年齢層（n=81）■

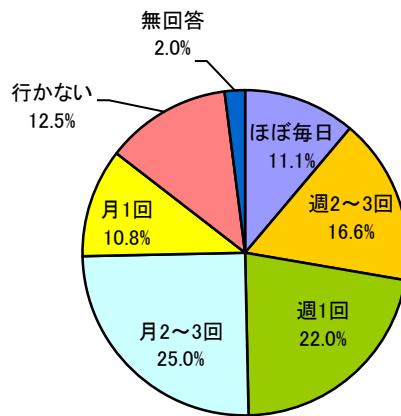


② 中心市街地に訪れる頻度

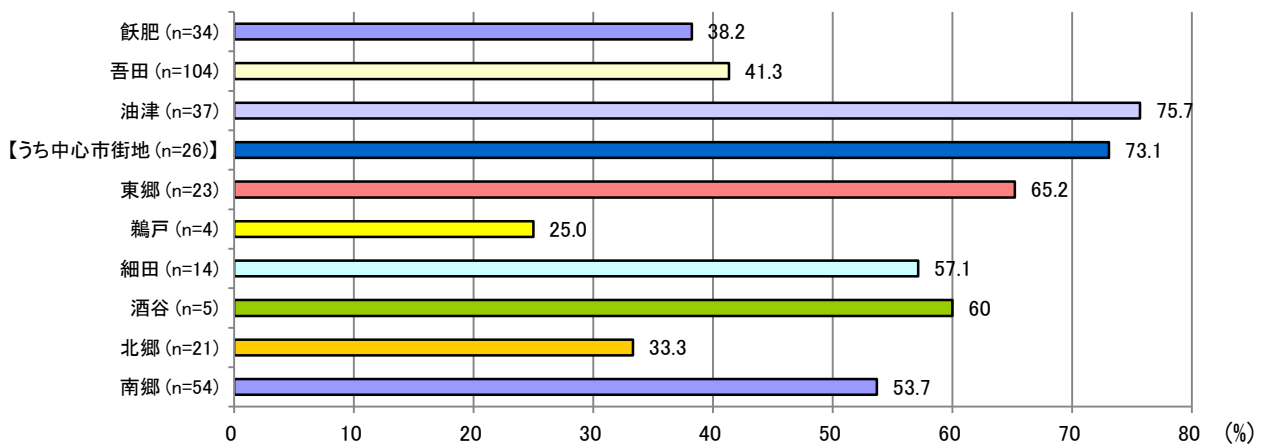
中心市街地に訪れる頻度は、「月2～3回程度」が25.0%と最も多く、また、約半分の方が週1回以上訪れており、現在でも比較的頻繁に訪れていることがわかる。

週1回以上訪れる方を居住地区別にみると、油津、東郷、細田、酒谷、南郷地区では半数以上となっているが、飢肥、吾田、鶉戸、北郷地区では、半数を下回っており、特に鶉戸、北郷地区は、宮崎市との距離が近いことが影響しているものと思われる。

■ 中心市街地に訪れる頻度 (n=296) ■



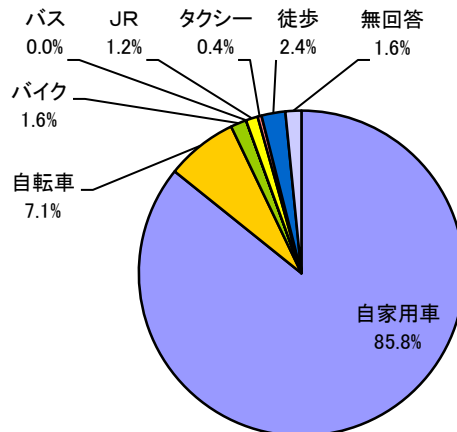
■ 週1回以上訪れる割合 (居住地区別) ■



③ 中心市街地に訪れる際の交通手段

中心市街地に訪れるための交通手段は、「自家用車」が85.8%と圧倒的に多く、バスやJR、タクシーといった公共交通はほとんど利用されていない状況である。

■ 中心市街地に訪れる交通手段 (全体：n=326) ■



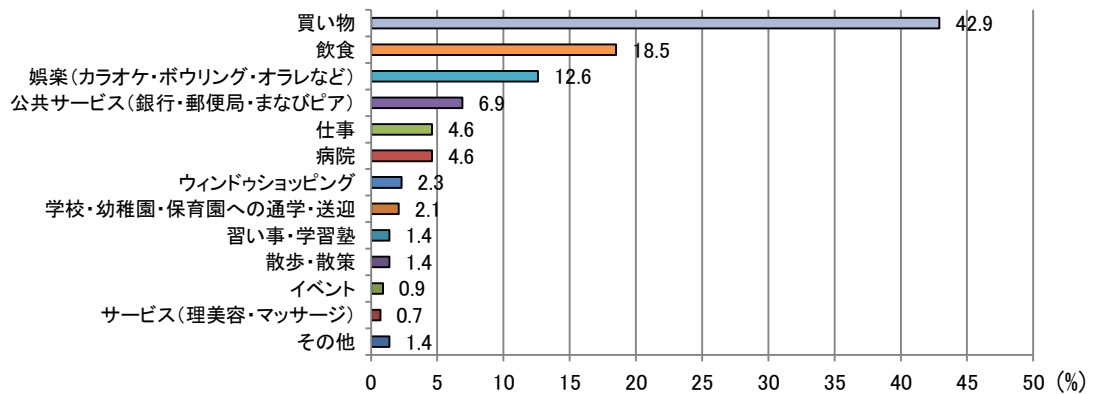
④ 中心市街地を訪れる主な目的

中心市街地を訪れる主な目的は、「買い物」が42.9%と圧倒的に多く、これは、県南地区最大級のショッピングセンターであるサピアや、県内でも宮崎市と本市にしかない百貨店である日南山形屋といった、他地区にはない店舗が立地していることが要因であると思われる。

次いで「飲食」や「娯楽」で訪れることが多く、これらは、中心市街地が本市最大の歓楽街で、夜間性飲食店を含め、多くの飲食店があることや、ボウリング、カラオケなどの娯楽施設が中心市街地にしか立地していないことが要因であると思われる。

反面、「イベント」を目的として訪れる方は1%未満であり、現在実施しているイベントは、若い方を引きつける魅力が薄いと思われる。

■ 中心市街地を訪れる主な目的（全体：n=581） ■

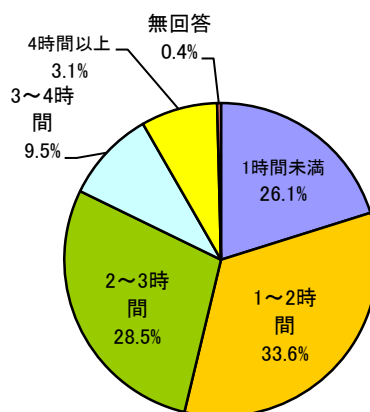


⑤ 中心市街地での滞在時間

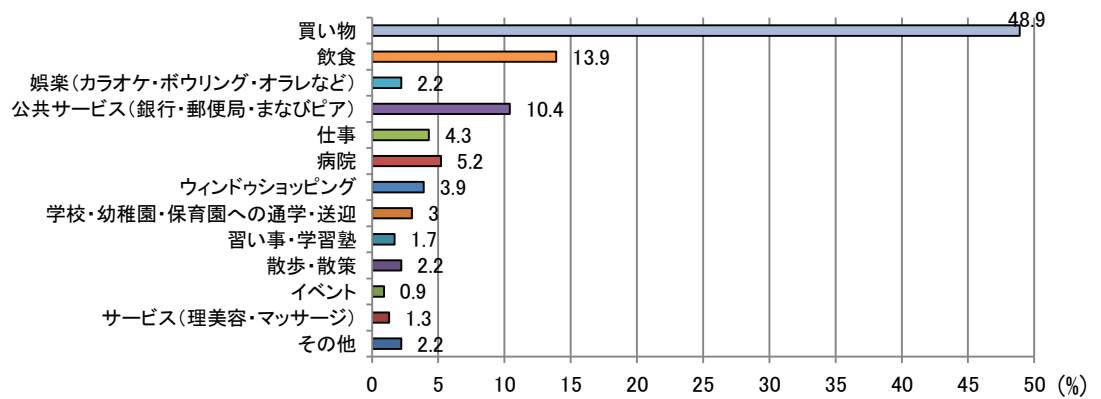
中心市街地を訪れた際の平均的な滞在時間は、「1時間以上 2時間未満」が33.6%と最も多い。

また、滞在時間が2時間未満と2時間以上の人の訪れた理由は、共に「買い物」目的が最も多いが、2時間以上の人は「娯楽」や「飲食」を目的としている割合が多い。

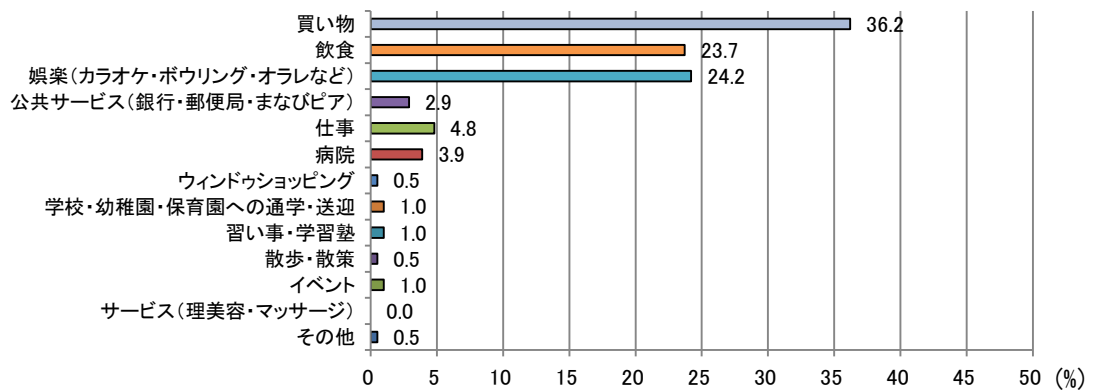
■ 中心市街地での滞在時間（n=253） ■



■滞在時間が2時間未満の方の主な目的（n=231）■



■滞在時間が2時間以上の方の主な目的（n=207）■



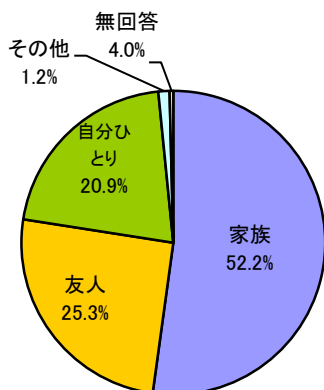
⑥ 中心市街地へ出かける際の同行者

「家族」と出かけると回答された人が52.2%と最も多い。

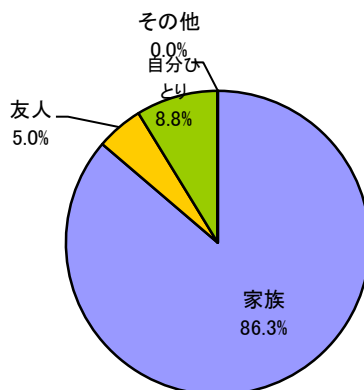
また、小学生以下の子どもがいらっしゃる人とそうでない人を比較すると、子どもの有無にかかわらず、「家族」と出かける割合が最も多いが、子どものいる人は86.3%が家族連れであり、子育て中の人は、子ども連れでないと出かけるにくい環境下にあると言える。

反面、子どものいない人は、友人や自分ひとりで出かける割合が多い。

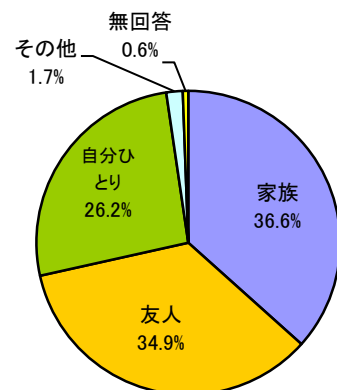
■同行者(全体：n=253)■



■同行者(子ども有り：n=85)■



■同行者(子どもなし：n=172)■



3) 中心市街地の魅力形成に関する調査結果

① 中心市街地の満足度

現在の中心市街地について、どのような点で満足されているか、満足されていないかを、「商業機能」、「都市機能」の二項目に分けて調査した。

ア 商業機能

「満足している（その他を除く）」回答項目が 379 件だったことに対し、「満足していない（その他を除く）」回答項目が 537 件であり、また、その他の項目で「満足するものが何もない」との回答が 19 件あったことから、中心市街地の商業機能は、全般的に満足されていないことがわかる。

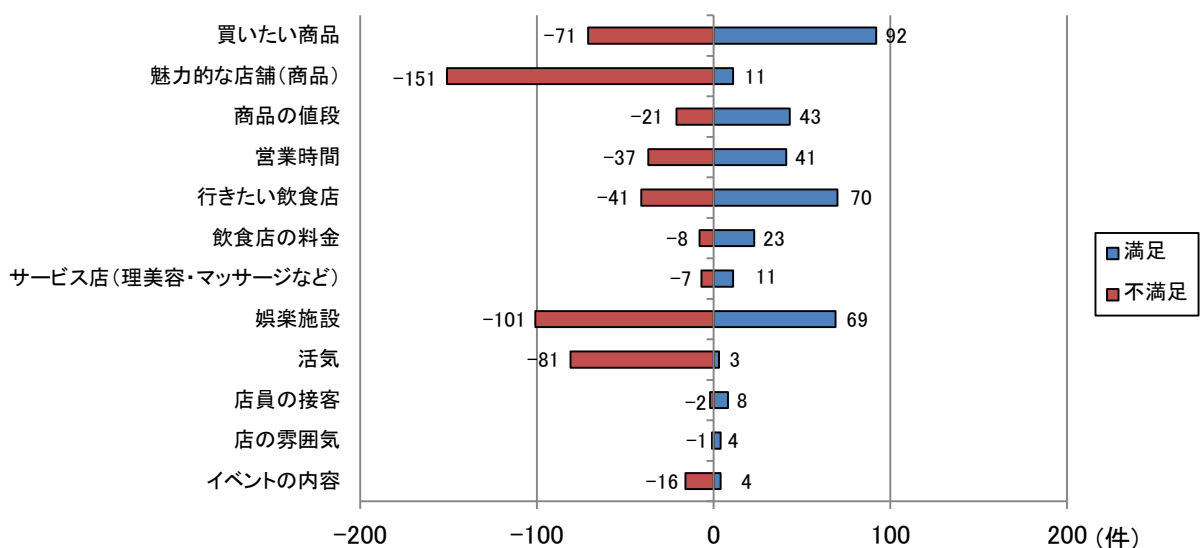
項目別に見ると、「買いたい商品」や「行きたい飲食店」はやや満足度が高いと言えるが、「魅力的な店舗（商品）」は圧倒的に不満に感じられている。

また、ボウリング場やカラオケ店などの「娯楽施設」は、市内でも中心市街地にしか立地していないにもかかわらず満足されていない。「娯楽施設」は中心市街地に限らず、市内全域で不足している機能であるが、中心市街地における満足度が低いということは、中心市街地が楽しめる要素を持つ必要があるとの期待の裏返しであると思われる。

更に、「活気」や活気を生むための「イベントの内容」についても満足度が低く、これらの背景には、中心市街地は、様々な人で賑わう場所というイメージを持たれていること、また、イベントも、若い人が集まりたくなる内容となっていないことが原因であると思われる。

他の項目については、満足・不満足が概ね同じであるが、中心市街地としての魅力を形成するためには、満足度を高めていく必要がある。

■機能・サービスの満足度（商業機能）■



イ 都市機能

「満足している（その他を除く）」回答項目が 386 件だったことに対し、「満足していない（その他を除く）」回答項目が 458 件で、このことから、中心市街地の都市機能は、全般的に満足されていないことがわかる。

項目別に見ると、「公共公益施設」や「治安・景観」の満足度は高く、反面、「公共交通機関」、「様々な機能が歩いて回れる範囲に立地」、「友達や家族で行ける施設」について不満度が高くなっている。

「公共公益施設」については、金融機関 4 行の支店や郵便局が立地していること、多くの病院が立地し、多様な診療科があること、サピアに住民票などの諸証明が交付できる市民サービスコーナーあることやまなびピアで税込納できるなどの行政サービスが利用できることといった機能が集積している点が評価されていると思われる。

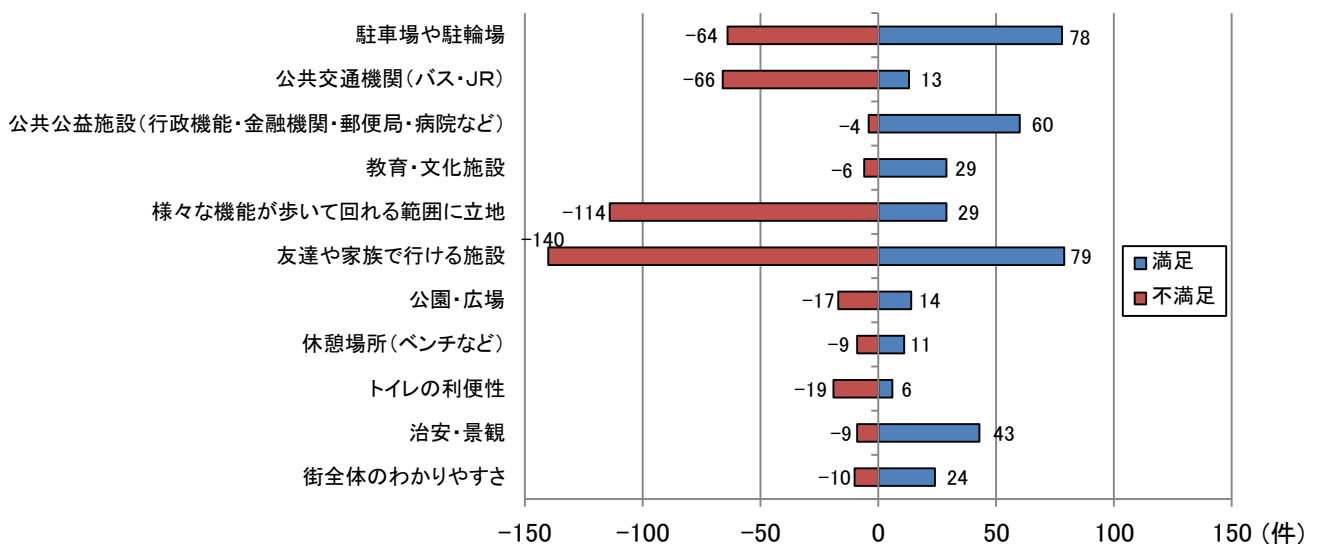
「公共交通機関」については、中心市街地が市内公共交通の起点となる場所であるにもかかわらず、利用者の減少に伴う便数の減少や乗車料金の設定に不便を感じていると思われる。

「様々な機能が歩いて回れる範囲に立地」について、中心市街地には都市機能が集積しているものの、市民には、歩いて回れる範囲に様々な機能があるとは認識されていないと思われる。

しかしながら、この項目に高い関心を持たれていることから、市民にとって中心市街地は「様々な機能が歩いて回れる範囲に立地」している場所であるということが意識されている結果であると思われる。

「友達や家族で行ける施設」については、自分や一緒に訪れる人の誰もが楽しむことができる施設そのものが求められていることはもちろん、「様々な機能が歩いて回れる範囲に立地」していることに高い関心を持たれていることと併せて考えると、様々な機能の集積による楽しめる環境（空間）が求められていると思われる。

■機能・サービスの満足度（都市機能）■



② 中心市街地に求める機能（サービス）

中心市街地にどのような機能（サービス）等があれば、今より訪れる機会や滞在時間が増えると思うかを、「商業機能」、「都市機能」の二項目に分けて伺った。

ア 商業機能

「若い世代向けの衣料品店」が 13.2%と最も多く、次いで、「娯楽施設」や「カフェやファーストフード店」といった機能が求められている。

また、「本屋」や「雑貨店」といった店舗が上位にあることから、現在中心市街地に不足する業種が充実することで、訪れる機会が増えるものと思われる。

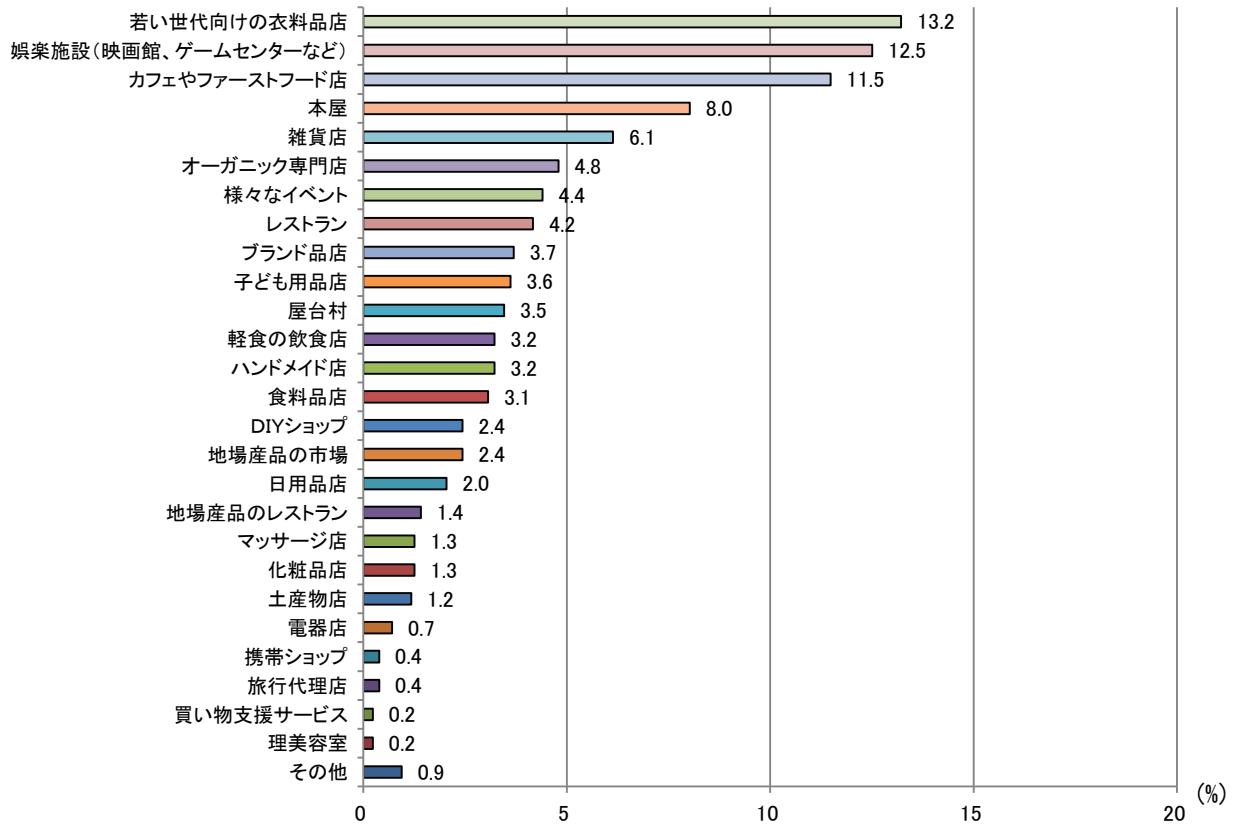
「様々なイベント」が上位に上がっていることから、現在のイベントは、若い世代を引きつける魅力ある内容となっていないと思われる。

また、主に宮崎市に買い物に行く人に限ってみてみると、「若い世代向けの衣料品店」や「娯楽施設」、「カフェやファーストフード店」といった機能が、他の機能に比べて強く求められていることから、全市的にもこれらの機能が不足していると推測され、その中で中心市街地は、若い世代向けの店舗や「楽しむ」機能を有する場所として期待されていると思われる。

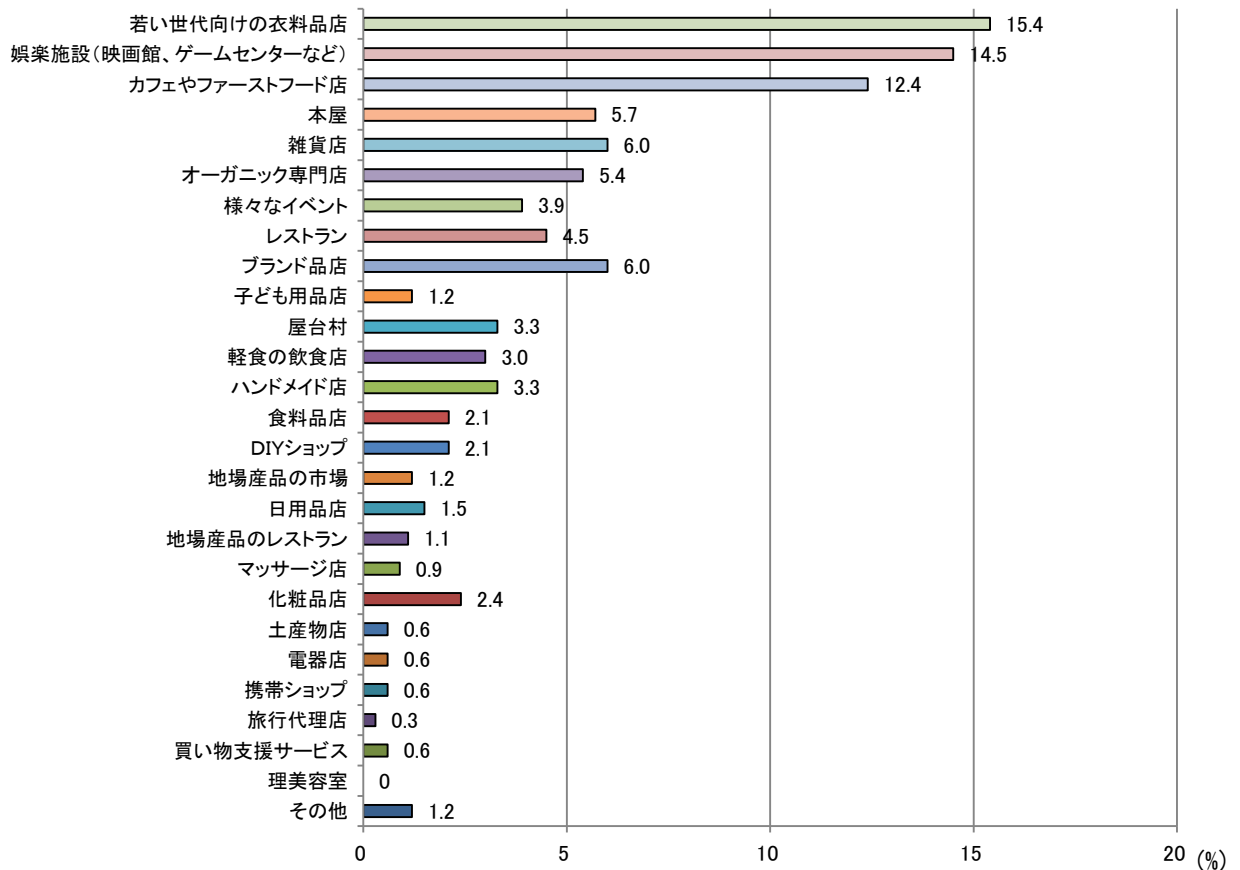
更に、小学生以下の子どもがいる方に限ってみてみると、「若い世代向けの衣料品店」や「娯楽施設」、「カフェやファーストフード店」といった機能に次いで、「子ども用品店」が上位に上がっている。

また、全体の割合よりも子育て中の方のほうが割合の高い項目は、「子ども用品店」以外に「地場産品の市場」や「様々なイベント」、「食料品店」となっており、このことから、子育て中の方は、日常的な買い物や、子どもを対象とした店舗（機能）を求めていると思われる。

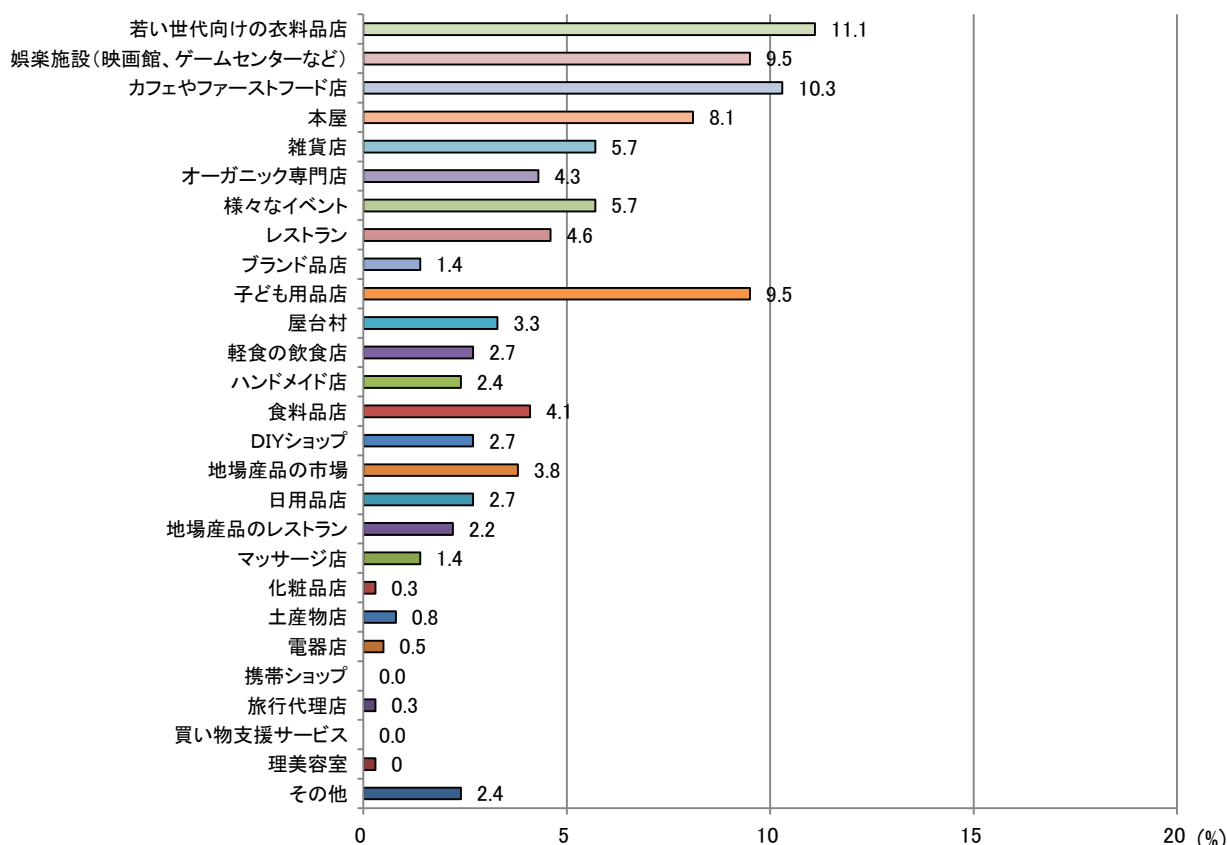
■ 中心市街地に求める機能・サービス（商業機能：n=1,271） ■



■ 主に宮崎市で買い物される方が中心市街地に求める機能・サービス（商業機能：n=332） ■



■子育て中の方が中心市街地に求める機能・サービス（商業機能：n=369）■



イ 都市機能

「様々な機能が歩いて回れる範囲に立地」が12.9%と最も多く、更に、「用途が自由（バーベキューや花火などが可能）な公園・広場」が多く求められており、商業機能で求められる機能と併せて考えると、機能の集積による利便性もさることながら、「楽しむ」機能が集積していることが望まれていると思われる。

更に、「使いやすい駐車場や駐輪場」や「公共交通機関の利便性向上」が上位に上がっており、来街利便性の向上も求められている。

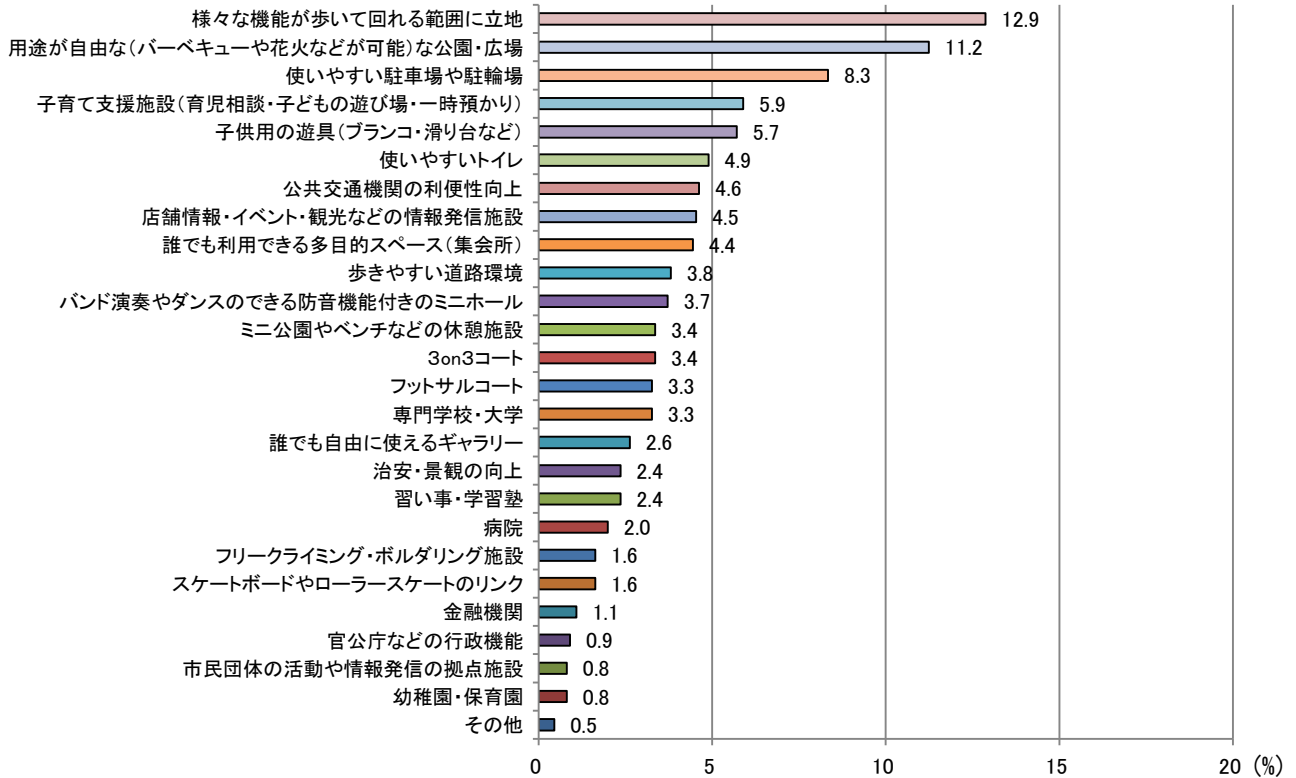
また、主に宮崎市に買い物に行く方に限ってみると、「様々な機能が歩いて回れる範囲に立地」や「用途が自由（バーベキューや花火などが可能）な公園・広場」といった機能以外に「誰でも利用できる多目的スペース（集会所）」、「3on3コート」、「バンド演奏やダンスのできる防音機能付きのミニホール」といった、若い世代が活動できる機能（場所）が求められており、買い物以外での機能の充実によって、市内での活動を促進できるものと思われる。

更に、小学生以下の子どもがいる方に限ってみると、「子供用の遊具（ブランコ・滑り台など）」が最も多く、次いで「子育て支援施設（育児相談・子どもの遊び場・一時預かり）」と子どもの遊び場が求められている。

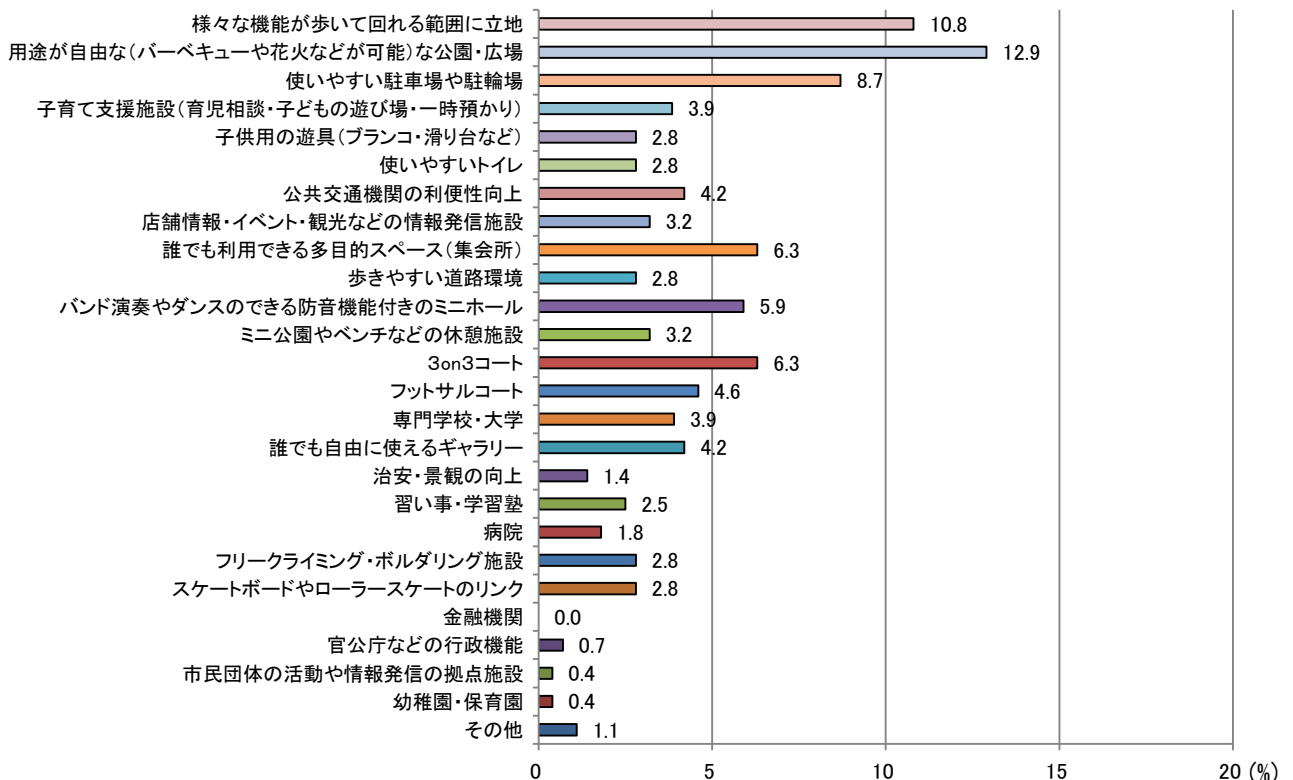
これは、商業機能で求められる機能と併せて考えると、子どもと買い物に出かける際に、子どもが遊べる場所が必要であることや、子どもを短時間預

けて、ゆっくり買い物ができるといった利便性が求められているからであると思われる。

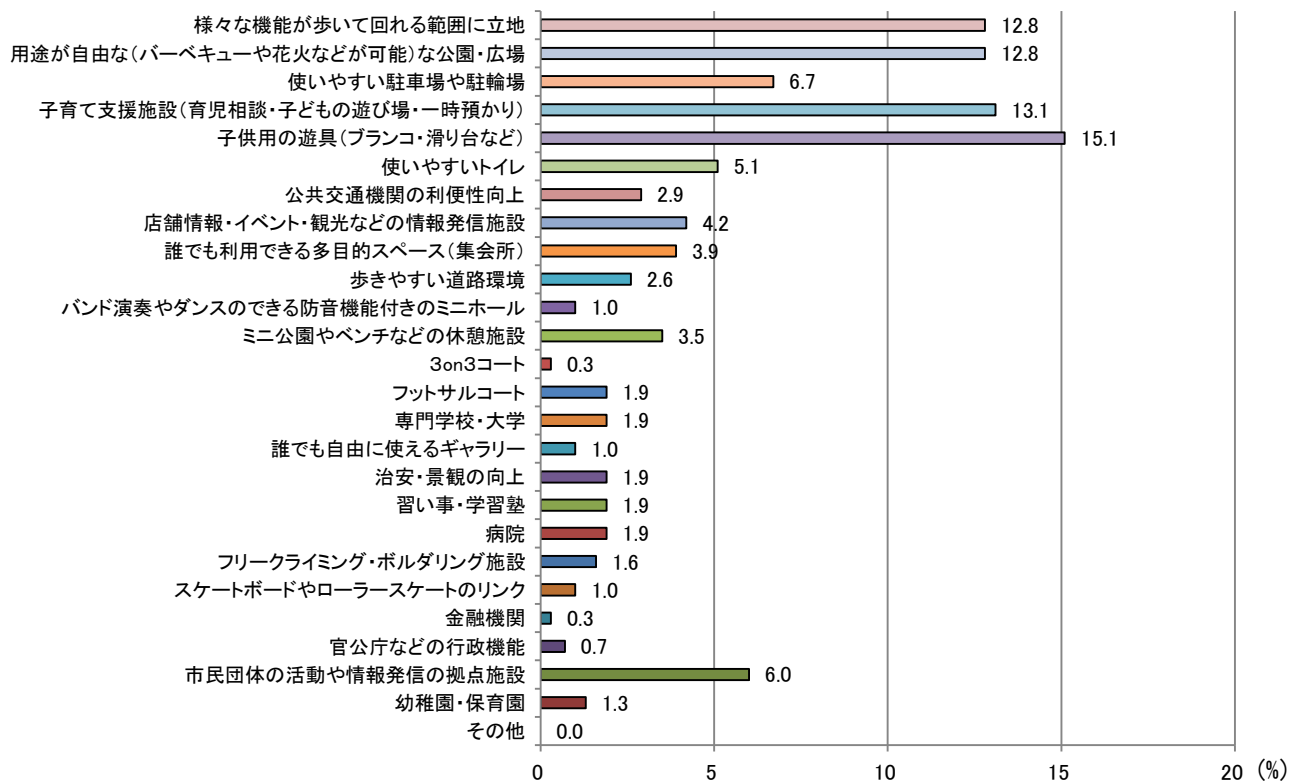
■ 中心市街地に求める機能・サービス（都市機能：n=1,103） ■



■ 主に宮崎市で買い物される方が中心市街地に求める機能・サービス（都市機能：n=286） ■



■子育て中の方が中心市街地に求める機能・サービス（都市機能：n=312）■

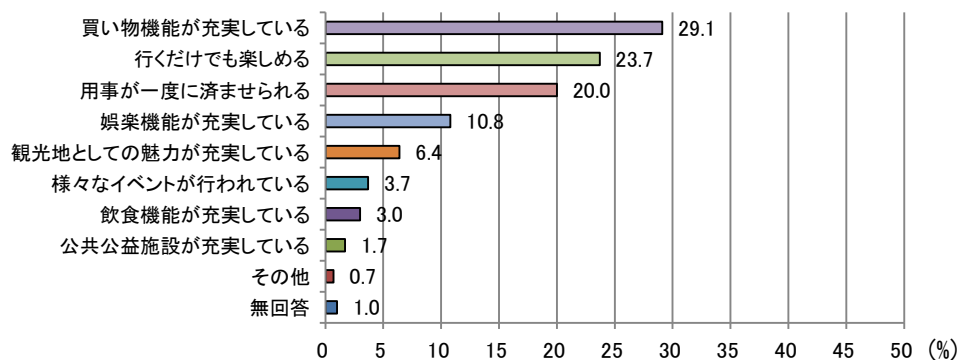


③ 市民が求める中心市街地

「買い物機能が充実している」が 29.1%と最も多く、次いで「行くだけでも楽しめる」、「用事が一度で済ませられる」がそれぞれ 2 割を超えており、これらのことから、若い世代が訪れるためには「買い物環境」を充実させることはもちろん、色々な機能が集積することで、訪れた際に一度に用事が済ませられる環境が求められていると思われる。

また、「娯楽機能」については、現在の中心市街地において不満が強く、必要な機能として強く求められているにもかかわらず、「市民が求める中心市街地」という観点では中位に留まっており、このことから、単に娯楽機能が充実するだけではなく、買い物機能や様々な用事が済ませられる都市機能が融合し、「行くだけでも楽しめる環境」が求められていると思われる。

■中心市街地はどのような場所であるべきか（n=296）■



(6) 市民ニーズの全体分析

市街地環境では、市内でもインフラ整備が進んでいることから、全体的に堀川運河や油津港などの既存ストックの有効活用が求められているなか、子育て世帯においては、子どもを遊ばせられる公園や全天候型のスペース、若い世代においては、バーベキューや花火など用途が自由な公園・広場、スポーツやバンド演奏、ダンスなどの活動ができる場所といった、既存施設の機能や利便性の向上が求められている。

都市福利施設や居住環境では、中心市街地における人口減少や少子高齢化に対する懸念が強いことから、若者を中心とした定住人口の増加を図る施策や高齢者が安心して暮らせる施設整備などが求められている。

都市福利施設としては、一時預かりや育児相談ができる子育て支援施設の設置や子どもと出かけた際に子どもを短時間遊ばせられる場所など、子育て世代が利用しやすい環境整備が求められている。

また、中心市街地に高齢者施設が全く立地していないことから、利便性の高いまちなかで安心して老後を暮らせるよう、老人ホーム等の施設設置も望まれている。

居住環境では、子育て世帯において、低家賃アパートや住宅購入支援が求められている。

商業環境では、一度で買い物が済ませられるほどの品物の充実が求められており、「住む」、「来る」を問わず、食料品や日用品などの生活に必要な店舗が充実することで、来街する機会が増えると感じられている。

子育て世帯には、子ども用品の店舗や子どもと訪れやすい店舗（機能）、若者には、若者向けの衣料品店や本屋、雑貨店といった、現在の中心市街地に不足する業種の充実が求められている。

また、娯楽施設やカフェ・ファーストフード店といった買い物以外での用事でも訪れやすく行くだけでも楽しめる環境整備が望まれている。

更に、堀川運河、港、食などの地域資源を活かした取組を進めるとともに、情報発信の強化により、交流人口の増加を図ることが期待されている。

交通環境では、中心市街地に来街するための公共交通機関の利便性の向上や、自家用車の利用が多いことから、利用しやすい大きな駐車場の整備が望まれている。

また、公共交通機関が整備されていない中心市街地に隣接した地区では、自家用車を所有していない高齢者が多いことから、気軽に来街できる循環バスの運行が求められている。

全般的に、子育て世代には「様々な機能が歩いて回れる範囲にあること」が、若者には、娯楽機能と様々な用事が済ませられる都市機能の融合による、「行くだけでも楽しめる環境」が望まれていることから、中心市街地は、多様な機能が密集し、利便性が高いとともに、楽しめる空間となることが望まれている。